

2026

Surface Laptop 13inch

セットアップマニュアル

 Copilot+PC

このPC は大学生協オリジナルモデルです
本セットアップマニュアルは大学生協が発行しております



本マニュアルはWindows 11 25H2 のバージョンにて検証および作成されております



お使いのOS バージョンによっては一部表示が異なる可能性があります



Copilot+ PCの機能を最大限活用するため、初期セットアップ完了後Windows Updateと、Microsoft Storeアプリアップデートを必ず実施ください
* 詳しくは19ページ参照

ID・Password 記入欄



大切だから忘れず、記入

Surfaceのセットアップや一部の設定にはMicrosoftアカウントが必要です、
セットアップを開始する前に使用するアカウントをどうするか決めましょう

* 新規作成の場合は、この後の手順で作成方法の説明があります

新しいパソコン、新しい大学生活に合わせて
新規にアカウントを作りたい
もしくは、今までMicrosoftアカウントは使用していない

すでにMicrosoftアカウントを使用している、
新しいパソコンにも今までの情報を引き継ぎたい

ローカルアカウント パスワード	
PIN	
Office アカウント ID	
Office アカウント パスワード	
Microsoft アカウント ID	
Microsoft アカウント パスワード	
ウイルスバスター 登録メール	

INDEX

パソコンを正しく快適に使うために気をつけよう！	・・・04
セットアップに必要なもの	・・・05
本体使用準備・各部名称	・・・06
セットアップの注意点	・・・07
タッチパッド操作	・・・08
文字入力	・・・09
初期設定	・・・10
必須アップデート項目	・・・19
ネットワークへの接続方法	・・・20
デバイスの暗号化(BitLocker) * 必ずお読みください *	・・・21
Windows 11 の主な操作方法について	・・・33
ログインパスワードの変更(設定)方法	・・・37
Windows Update	・・・39
Windows Update 更新中の注意	・・・40
Windows Update 一時停止	・・・41
Microsoft Edge について	・・・42
Microsoft Edge の設定	・・・44
Microsoft365 のライセンス認証	・・・46
Microsoft365 更新プログラム適用について	・・・48
USB メモリの接続	・・・49
【活用編】バックアップの必要性	・・・50
用語集(50 音順)	・・・51
Surface を活用するために	・・・54
Microsoft Store	・・・55
Windows Hello の設定	・・・56
OneDrive の設定	・・・58
電源OFF	・・・62



振動衝撃に注意

パソコンは衝撃や振動に弱いものです。持ち運び時にはケースに入れるようにしましょう。ケースに入れていても自転車のカゴに入れるのは禁物です。振動でハードディスクやボディが壊れる恐れがあります。また、満員電車の圧力で破損した例もあります。机からの落下も破損の原因になりますので注意しましょう。



置き忘れ、盗難に注意

学内や電車の網棚、飲食店などへのパソコンの置き忘れが毎年発生しています。ちょっとトイレに行った際に・・・というケースもあります。パソコンは高価な商品ですが、それ以上に個人情報などの大切なデータがたくさん詰まっています。コンパクトで持ち去られやすいので、盗難などにも注意しましょう。



飲み物に注意

パソコンは電子機器なので、水にとっても弱いものです。部屋の中やカフェなどでうっかり飲み物をこぼしてしまうケースが意外に多いです。パソコンの操作中は出来るだけ近くに飲み物を置かないようにしましょう。また、ちょっとした水滴から守るためにも、キーボードカバーを使うという方法もあります。



液晶画面の取り扱いに注意

液晶画面はガラスです。衝撃や強い圧力で破損します。例えば、PC本体をふっつける、画面を指で力強く押す、キーボードの上にUSBメモリやペンなどを置いた状態でフタを閉じる、PCの液晶ディスプレイ側を持って本体を持ち上げるなどの取り扱いを行うと液晶画面パネルが破損します。掃除の際にも柔らかい布やクリーナーでやさしく拭き取るようにしましょう。

※破損、水濡れ等はメーカー保証期間内でも有料修理です



Surface Laptop 13inch 本体
タッチでも操作ができるクラムシェル型PCです



AC アダプタ

Surface の充電器です
長時間の作業の際に利用します

充電端子(USB-C)

ACアダプターを接続します
どちらのポートでも充電は可能です
また、USB-Cを使用した外部機器の
接続にも使用します



USB-A ポート

USB-A を使用した外部機器への接続に利用します

3.5 mm ヘッドフォン ジャック

オンライン授業や動画視聴をする際に利用します



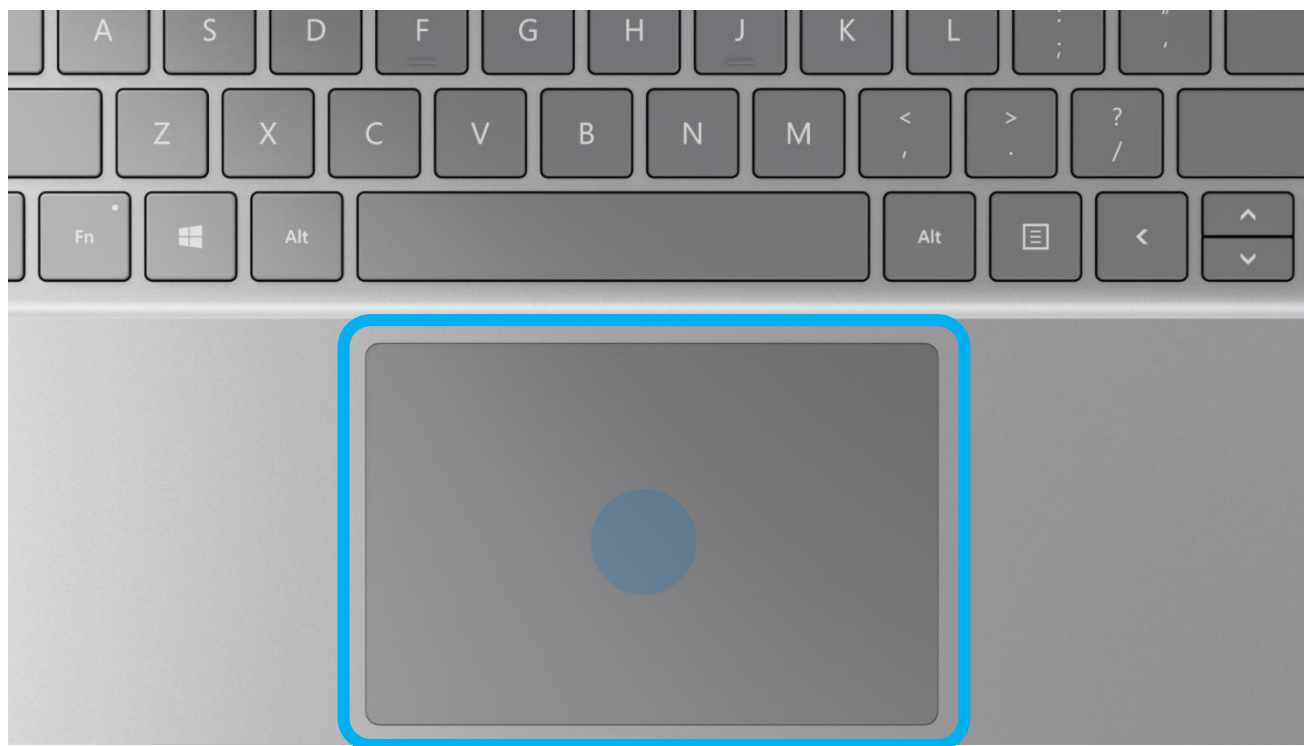
電源ボタン

電源ON・スリープといった操作ができます
また、設定を行えば指紋認証でログインをすることも
可能です

* 掲載のキーボードは英語版です、実際の販売品は
日本語配列の製品です



タッチパッド



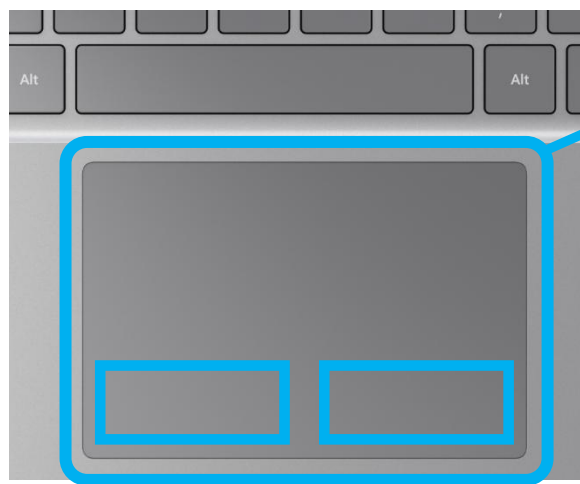
- ・パソコンを起動し、一定時間操作を行っていないと「省エネ」の為、液晶画面を自動的にOFFにする（スクリーンセイバーなどの）動作を行います
 - ・セットアップ中に画面が暗くなったときはタッチパッドに触れると画面が戻ります
- * 掲載のキーボードは英語版です、実際の販売品は日本語配列の製品です

タッチパッドに触れても復帰しない場合

タッチパッドに触れても画面が戻らない場合はスリープモードという状態になっています
その場合は、電源ボタンを操作すると画面が元に戻ります
覚えておいてください

* 異常状態が長く続くとき(10分以上)は電話サポートにお問い合わせください

ノートパソコンのタッチパッドを簡単に説明します
タッチパッドが初めての方は一読しておいてください



左クリックエリア

右クリックエリア

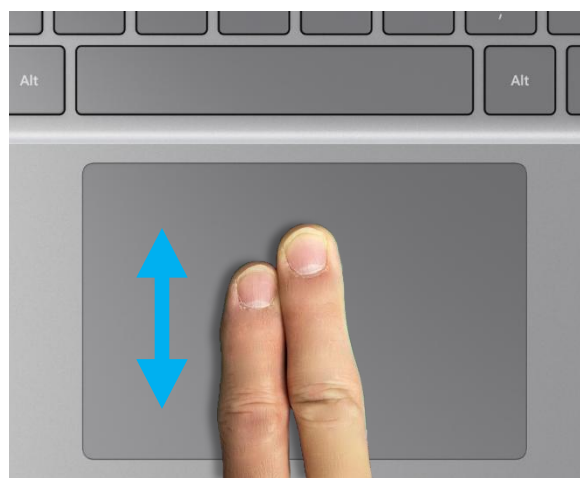
タッチエリア

タッチエリアに指1本を当てて動かすと画面上のマウスカーソルを動かすことができます



マウスカーソル

基本操作としてはマウスカーソルを動かして画面上のアイコンや文字、リンクに合わせて、**左クリックボタン**で**クリック**や**ダブルクリック**をします



最近の機種は（本機も）左図のように指2本で上下に動かすと画面**スクロール**ができます

クリックの種類

・クリック

⇒左クリックボタンを1回押すこと

・右クリック

⇒右クリックボタンを1回押すこと

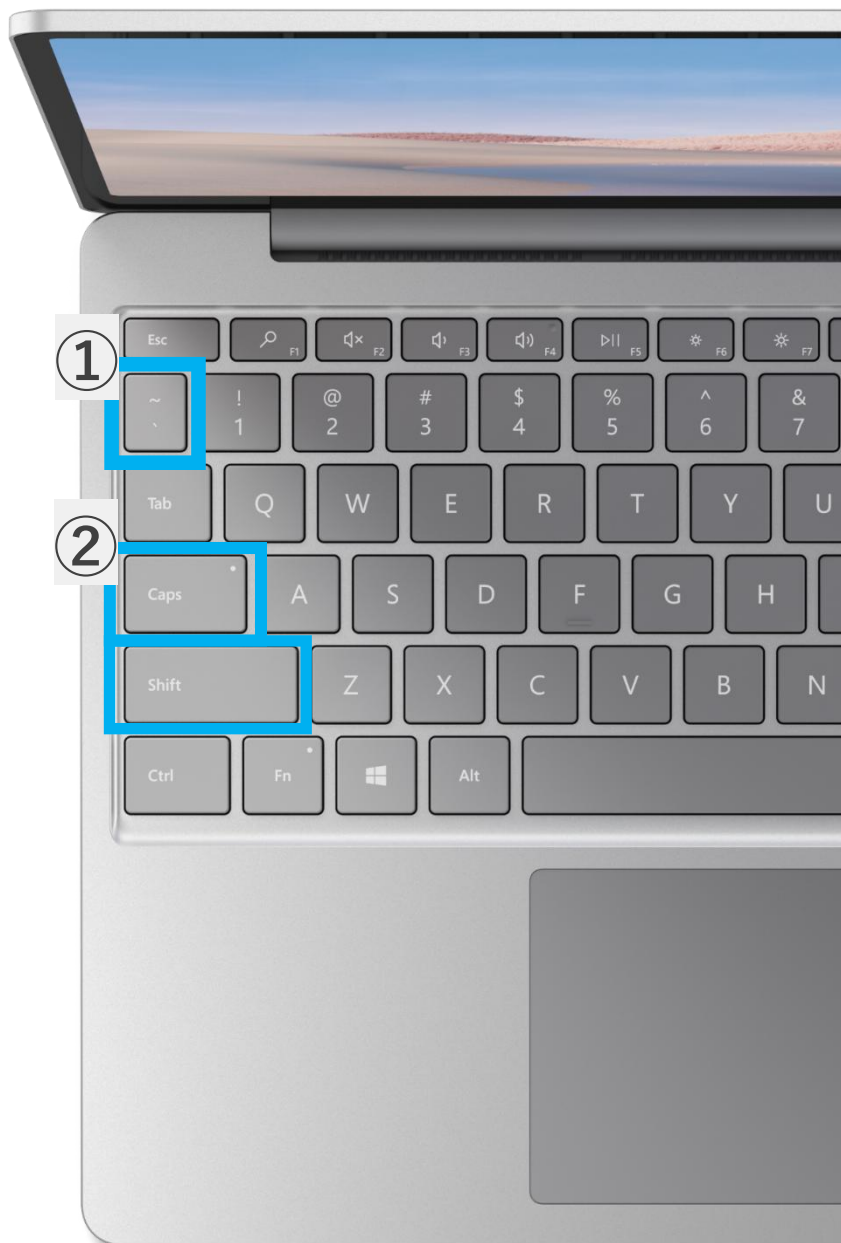
・ダブルクリック

⇒左クリックボタンを2回続けて押すこと

・ドラッグ

⇒左クリックボタンを押しながらマウスカーソルを動かすこと

※タッチエリアのタップ(指先で叩く)はクリックと同じ効果があります。
タッチエリアを2回タップすることで**ダブルクリック**と同じ効果があります



①半角/全角の切り替え方法

キーボード左上の【半/全】キーを押して切り替えることができます

画面右下に表示されている言語バーを見ると、現在の入力の状態を確認できます

「A」の場合は半角

「あ」の場合は全角になります

②大文字と小文字の入力方法

キーボードの【Shift】キーを押したまま、文字のキーを押すと大文字で入力ができます

また【Shift】キーを押したまま【CapsLock】を押すと常に大文字で入力ができる設定に切り替えることができます

この機能をCapsLockと言います

※もとに戻す場合はもう一度、【Shift】キーを押したまま【CapsLock】を押すと常に小文字が入力される設定に戻ります

CapsLock機能が有効か無効については、

【CapsLock】キー

右上のランプが白点灯している場合が有効で、この状態では常に大文字で入力されます

* 掲載のキーボードは英語版です。実際の販売品は日本語配列の製品です



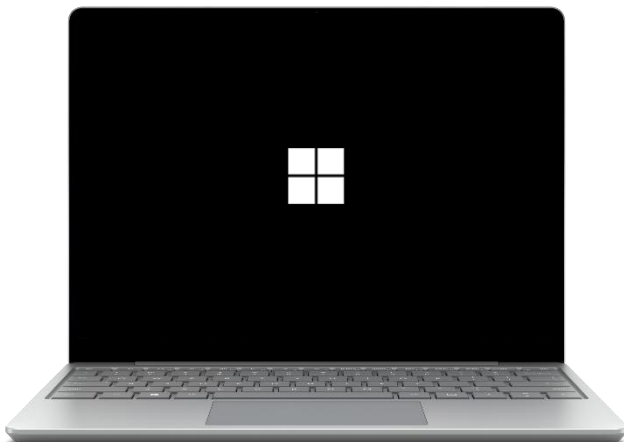
自身で初期設定を行う際は、デスクトップ画面が表示されるまでの工程を必ず完了させてください

以下の順番でACアダプターを接続します

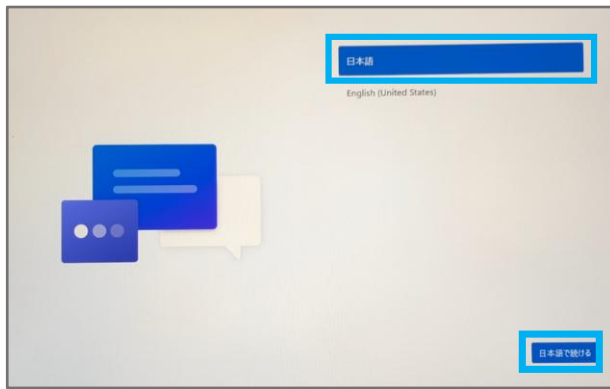
- ① ACプラグ（プラグ部分を起こします）
- ② USB-C（ACアダプター側）
- ③ コンセント
- ④ USB-C（Surface側）



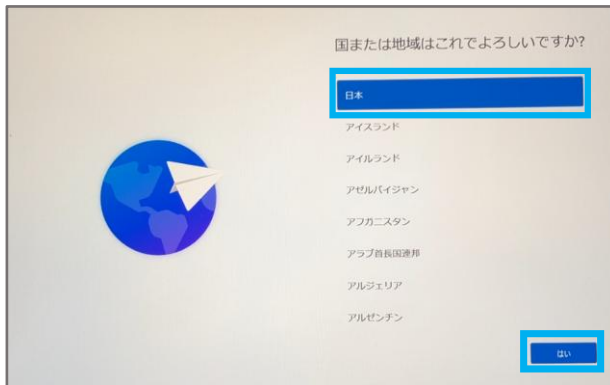
キーボード右上の電源ボタンを押します



Microsoft ロゴが表示され、しばらく待つと初期セットアップが開始されます



「日本語」を選択し、右下の[日本語で続ける]をクリックします

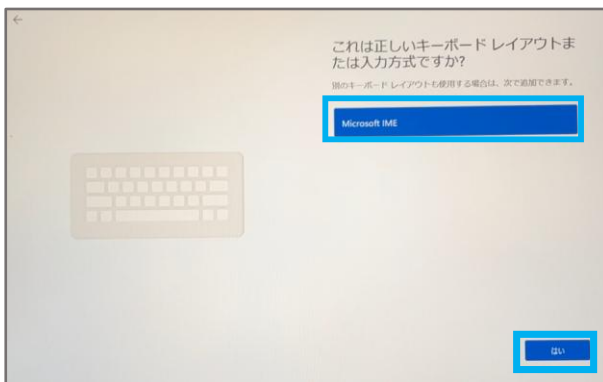


【国または地域はこれよろしいですか？】

と表示されたら、

「日本」を選択し、

右下の[はい]をクリックします



【これは正しいキーボードレイアウトまたは入力方式ですか？】

と表示されたら、「Microsoft IME」が選択されていることを確認し、右下の[はい]をクリックします



【2つ目のキーボードレイアウトを追加しますか？】

と表示されたら、右下の[スキップ]をクリックします



【ネットワークに接続しましょう】

と表示されたら、接続可能なWi-Fiを選択し、対応するパスワードを入力後、

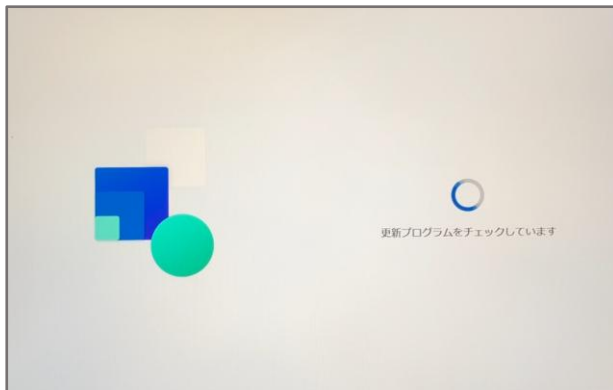
[次へ] をクリックします

※接続先選択後、「自動的に接続」にチェックを入れることで、次回からパスワード入力を省略できます



Wi-Fiに接続ができたことを確認後、

右下にある [次へ] をクリックします



【更新プログラムをチェックしています】

と表示されたらそのまましばらく

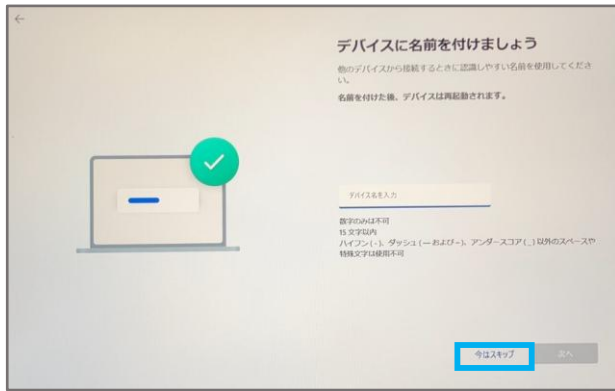
お待ちください

※お待ちいただいている間にパソコンが再起動をすることがあります。また、Wi-Fi接続の設定時に「自動的に接続」にチェックを入れていない場合は、再起動後、Wi-Fi接続画面になることがあります。その場合は「Wi-Fi接続」後に[次へ]をクリックしてください



【ライセンス契約をご確認ください。】

と表示されたら、右下の[同意]をクリックします



【デバイスに名前を付けましょう】

と表示されたら、右下にある**【今はスキップ】**をクリックします

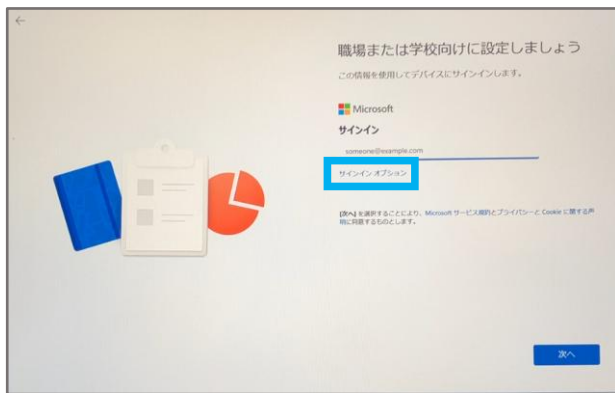
※後で設定が可能です



【このデバイスをどのように設定しますか？】

と表示されたら、

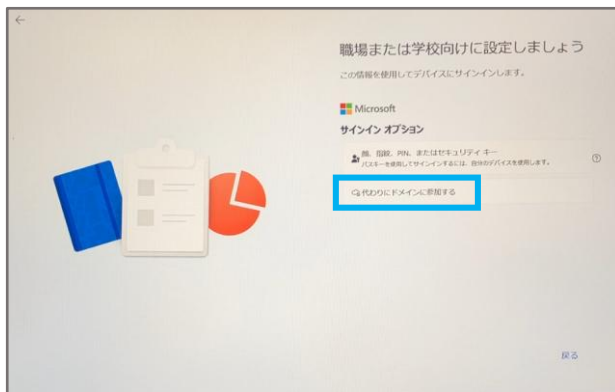
【職場または学校用に設定する】を選択し、右下にある**【次へ】**をクリックします



【職場または学校向けに設定しましょう】

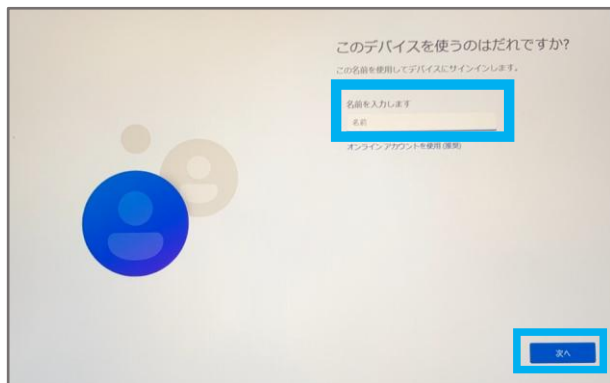
と表示されたら、すぐ下にある

【サインイン オプション】をクリックします



続いて、**【代わりにドメインに参加する】**

をクリックします

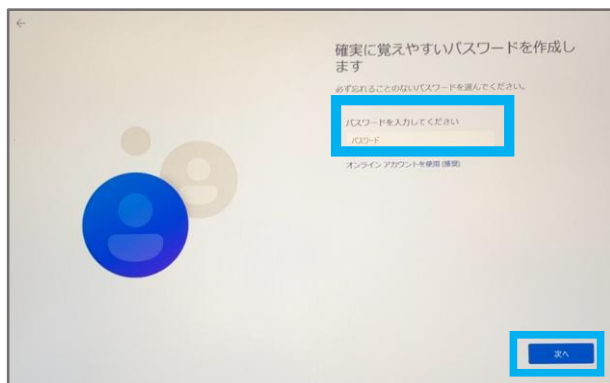


【このデバイスを使うのはだれですか？】

と表示されたら、PC利用時の名前(アカウント名)を入力します

日本語だと文字化けする可能性がある為、半角英数、アルファベットでの入力を推奨します

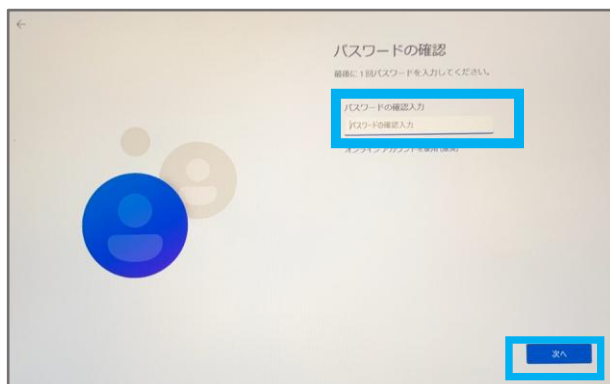
入力したら[次へ]をクリックします



【確実に覚えやすいパスワードを作成します】と表示されたら、パスワードを設定します。忘れることのないよう、必ずどこかに控えておいてください

入力したら[次へ]をクリックします

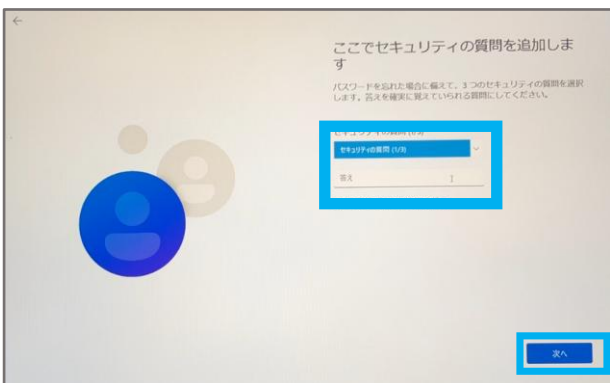
※パスワードの入力をせずに【次へ】をクリックすることで、スキップする事ができます。その場合は「16ページ」の【デバイスのプライバシー設定の選択】へ進んでください



【パスワードの確認】

と表示されたら、一つ前の画面で入力したパスワードをもう一度入力します

入力したら[次へ]をクリックします



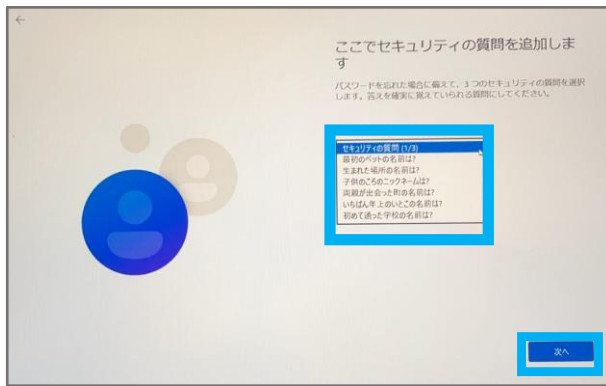
【ここでセキュリティの質問を追加します】

と表示されたら、パスワードを忘れた際の質問と答えを設定します

入力後、[次へ]をクリックします

※忘れることのないよう、必ずどこかに控えておいてください

また、パスワードを設定しなかった場合は表示されません



【このアカウントのセキュリティの質問を作成します】

質問の選択肢は全部で6つあります

以下の中から3つの質問を選択し、答えを設定してください

最初のペットの名前は？

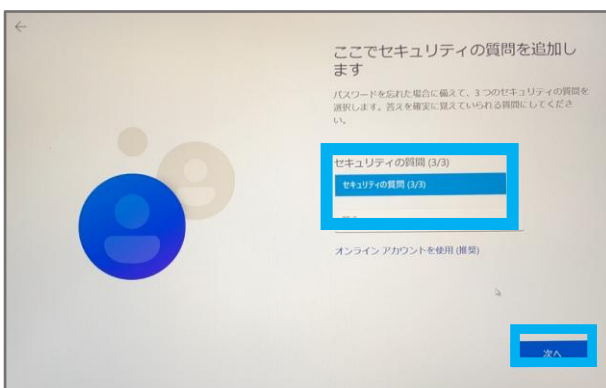
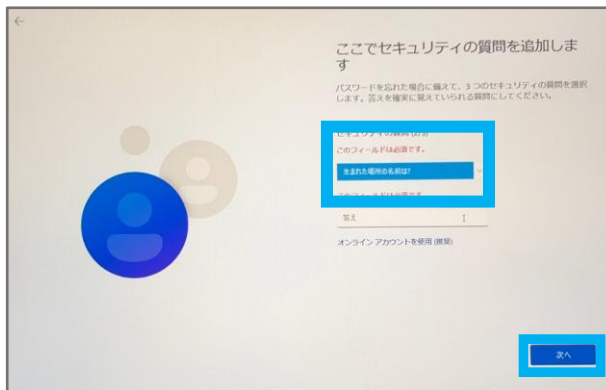
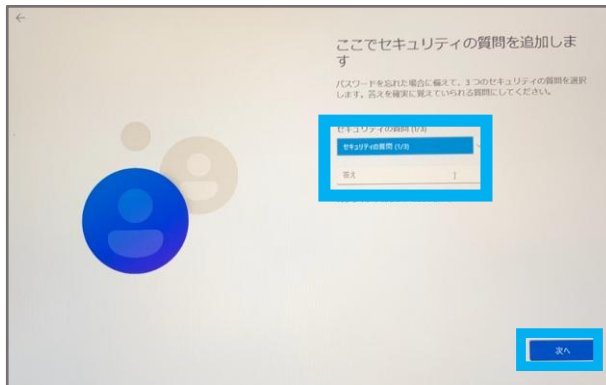
生まれた場所の名前は？

子供のころのニックネームは？

両親が出会った町の名前は？

いちばん年上のいとこの名前は？

初めて通った学校の名前は？





【より迅速かつ安全にサインインするために、指紋を使用しますか？】

と表示されたら、[今はスキップ]をクリックします



【デバイスのプライバシー設定の選択】

- ・位置情報
- ・デバイスの検索
- ・診断データ

右下の[次へ]をクリック

自動でページがスクロールされ次に



- ・手書き入力とタイプ入力
 - ・カスタマイズされたエクスペリエンス
- などの項目が表示されます

左の画面と項目の違いがあっても問題はありません

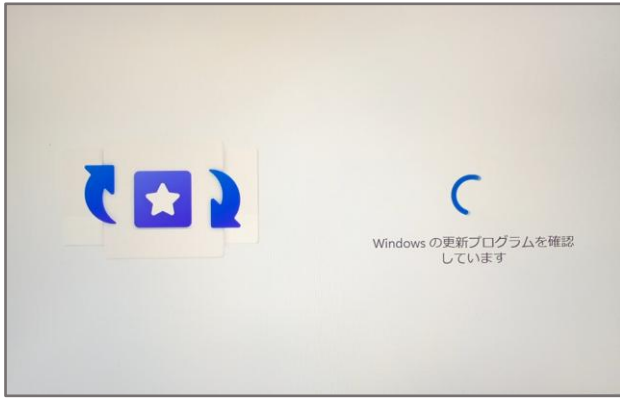
右下の[次へ]をクリック

自動でページがスクロールされます

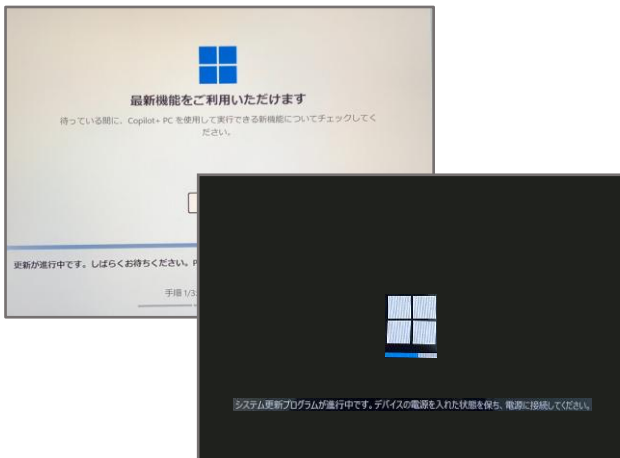


一番下までスクロールが完了したら、

右下の[同意]をクリックします



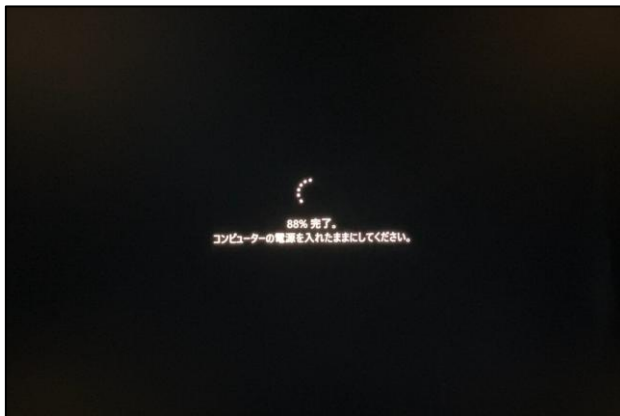
【Windows の更新プログラムを確認しています】と表示されたら、自動で画面が切り替わるまで待ちます



【最新の機能をご利用いただけます】または【システム更新プログラムが進行中です。】という表示される場合があります、そのままお待ちください

その後、パソコンの機能に関する案内が表示され自動で画面が切り替わります、しばらくそのままお待ちください

下の画面は参考です



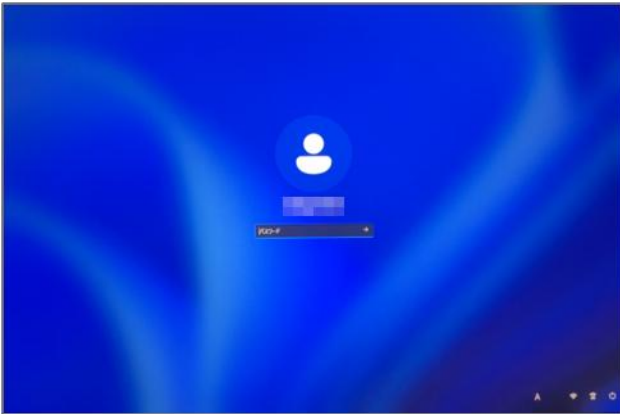
更新の完了後、パソコンが再起動をする場合があります



※再起動をしなかった場合は次のページに記載のデスクトップ画面が表示されます



再起動後に[日時]の画面が表示されたら、キーボードの「Enter」キー、もしくはトラックパッドの「左クリック」をしてください



Windowsの「ログイン画面」が表示されたら、初期設定の際に「ログインパスワード」を設定されている場合は設定した[パスワード]を入力してください



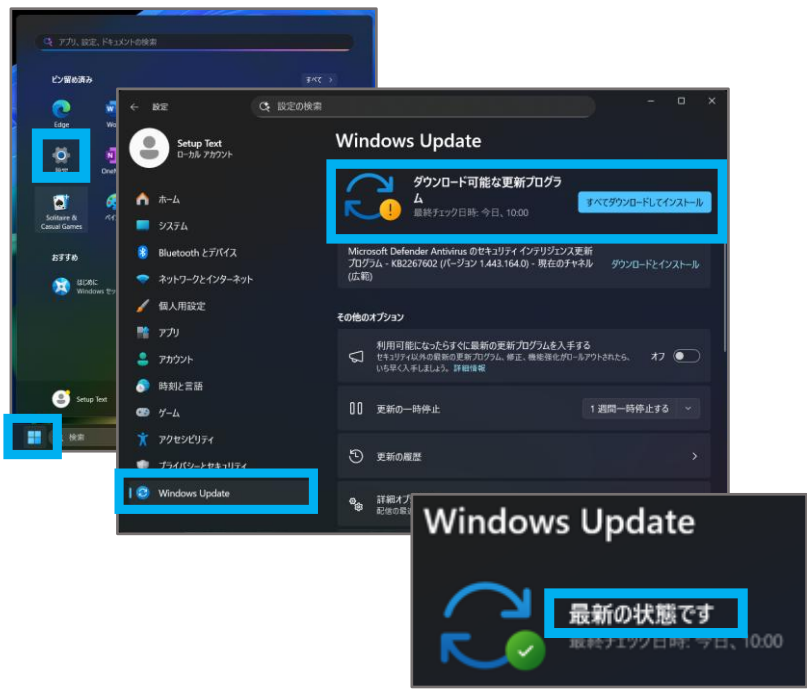
「こんにちは。」が表示されたら、画面が切り替わりますので、しばらくお待ちください



しばらくすると、
デスクトップ画面が表示されます
これでSurfaceの初期設定は完了です、
次のページの必須アップデートまで
ご確認ください

Copilot+ PCの機能を最大限活用するため、関連プログラムのアップデートを行います、必ず AC アダプターを接続し、ネットワーク環境が整っているところで実施をしてください

PC上で直接 AI 処理を行ったり、AI を活用して画像を効率よく作成する場合に必要な機能を ご使用になる前には以下の手順で 2 つのアップデートを行ってください



【アップデート①】Windows Update

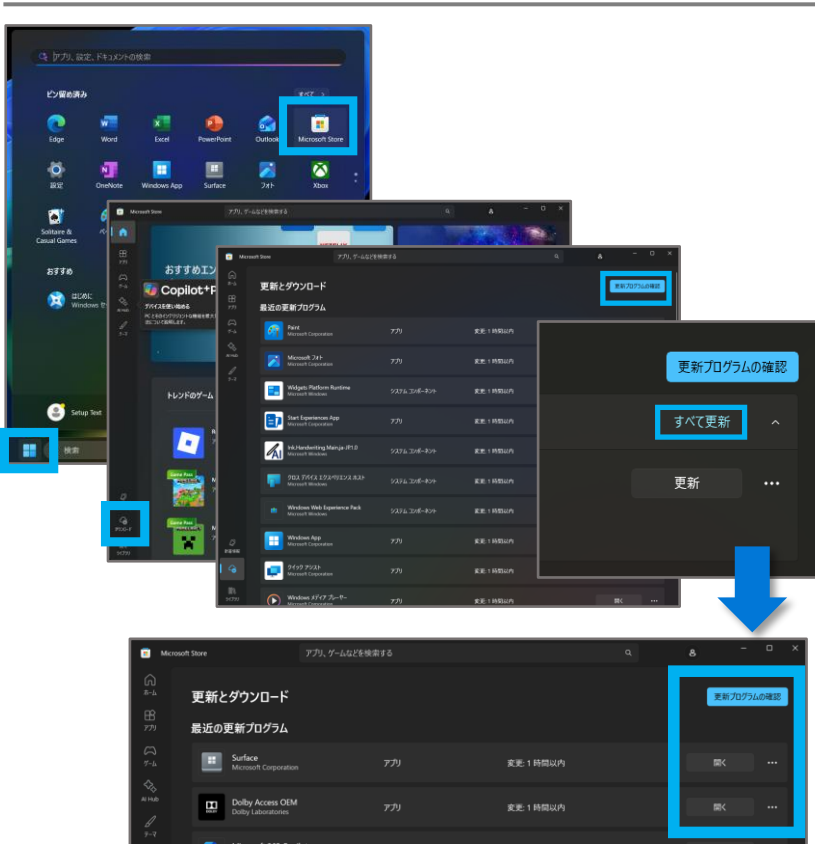
スタートメニューから設定をクリックし、Windows Updateの画面を開きます

更新状況を確認し「ダウンロード可能な～」の場合は更新を行います、「ダウンロードしてインストール」をクリックします

「最新の状態で」が表示されることを確認して設定のウィンドウを閉じます

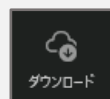
* 今後も更新は発生しますが Copilot+ PCの使用に関しては一度行うことで機能を利用することができます

* Windows Updateについては、後半のページで説明をしています



【アップデート②】アプリの更新

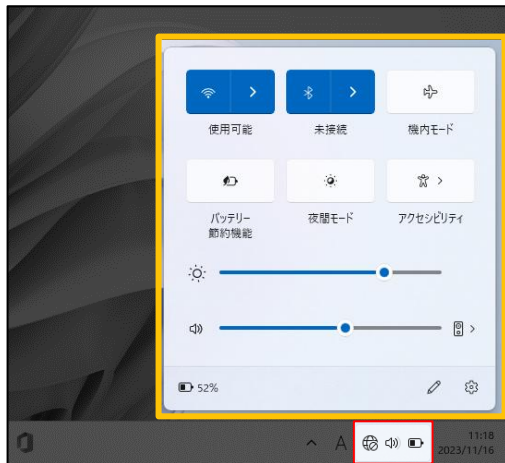
スタートメニューからMicrosoft Storeを開き左下の「ダウンロード」をクリックします



右上の「更新プログラムの確認」をクリックします、「すべて更新」、「更新」と表示されているアプリがある場合は「すべて更新」をクリックしてダウンロードとアップデートを行います

「更新プログラムの確認」を再度クリックして更新対象のアプリが表示されないことを確認してMicrosoft Storeのウィンドウを閉じます

* Microsoft Storeの使用方法については後半のページで説明をしています



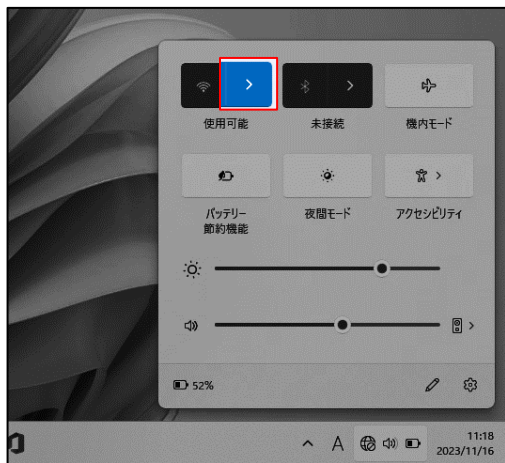
※違うネットワークに接続する手順の説明です

初期設定の際にネットワークへの接続をしている場合は作業を飛ばして構いません

デスクトップの右下の

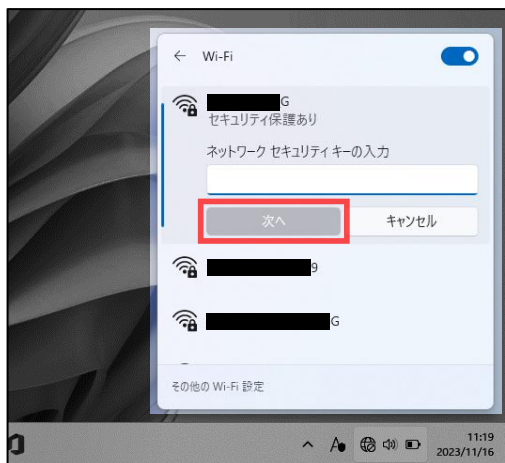
【地球儀】【スピーカー】【バッテリー】アイコン

ををクリックし、**クイック設定**を表示させます



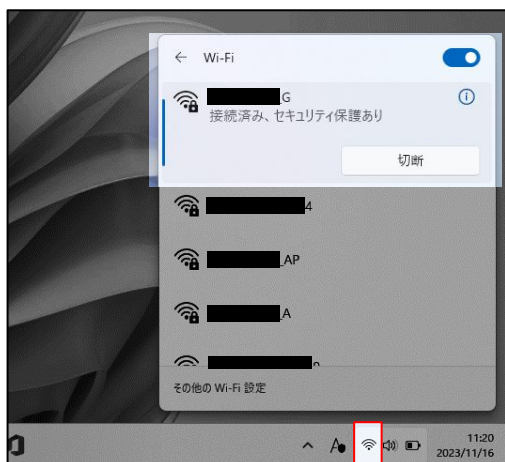
【Wi-Fi】アイコンの隣にある

ををクリックし、Wi-Fiの接続先を表示させます



接続可能なWi-Fiを選択後、

パスワードを入力し、[次へ]をクリック



WiFiに接続ができると地球儀のアイコンから

アンテナのアイコンに変わり、



接続したネットワークの下に [接続済み] の表示がされます。

以上でネットワークへの接続は完了です

◆ご利用時の重要なお知らせ◆
必ずお読みください。
～修理発生時のトラブルを回避します～

デバイスの暗号化（BitLocker）機能とは

パソコンの紛失や盗難をされてしまった場合に、パソコン内に記録されている情報を他者から守るための機能ですが、正しく認識をされずに使用された場合にパソコンが起動できなくなるリスクがあります。

利点と不利点（メリット・デメリット）がありますので、理解したうえで利用してください。

利点・メリット

パソコンに個人情報や重要な情報が記録されている場合、パスワードや解除キーがわからなければ不正に情報を見られてしまう事態を防ぐことができます。

不利点・デメリット

・使用中に暗号化の動作が行われるため、パソコンに負荷がかかった状態になります、近年のパソコンでは気にするほどではないですが、通常動作に加えて暗号化の動作も行われていることを知っておいてください。

・修理による部品交換などで、機器の構成が変わった際にパソコンが起動できなくなる場合があります、パソコンは治ったけれども使用できない状態になってしまいます。これはWindowsが別のパソコンに記憶装置が接続されたと認識し、保護機能を有効にする事に起因します。

* この状態を解除するためには【暗号化回復キー】が必要になります。

デバイスの暗号化を使用するかどうか迷われたら

大切な情報を守るための機能ですので、万が一のためにご使用することをお勧めしております。

* 次のページでは暗号化の状態の確認手順を記載しています、この機能を使用する場合と、自動で機能がオンになっている場合は、暗号化（BitLocker）回復キーのバックアップを必ず保管してください。

下記の手順で暗号化の状態を確認し、オフの場合は機能を有効にします
 有効化するにはMicrosoftアカウントが必要です
 すでにMicrosoftアカウントをパソコンに登録されていた場合は、暗号化機能が自動的にオンの状態になっている場合があります

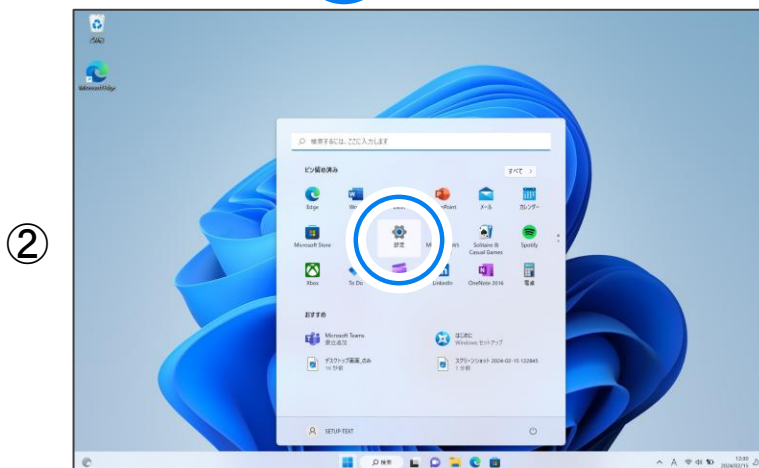
* 画像は一例です、メーカーや機種により表示が異なる場合があります



“スタートボタン”をクリックします



←“スタートボタン”



“設定”をクリックします。



←“設定”アイコン



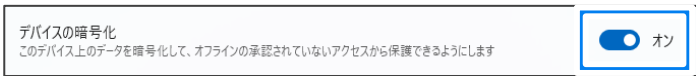
“プライバシーとセキュリティ”をクリックします

“デバイスの暗号化”が表示されますのでクリックします

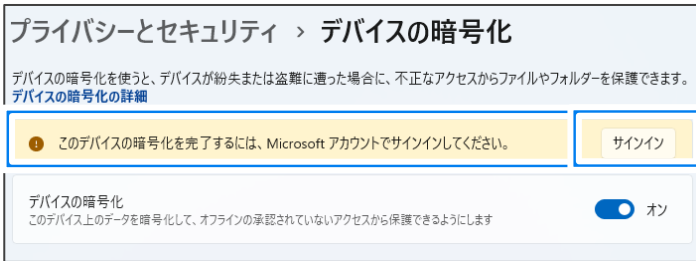
④



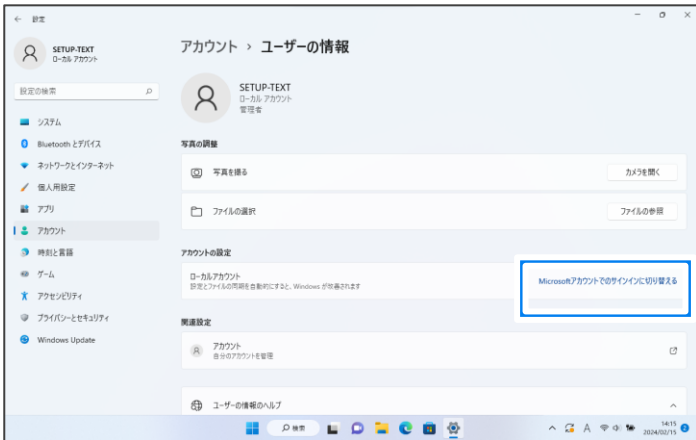
⑤



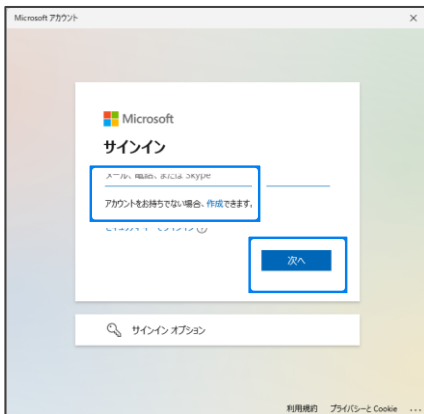
⑥



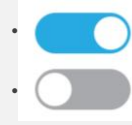
⑦



⑧



暗号化の状態を確認します



オンの状態

オフの状態

オフになっていた場合は、「オフ」をクリックし、「オン」の状態にします

「このデバイスの暗号化を完了するには、Microsoftアカウントでサインインしてください。」と表示された場合は、「サインイン」をクリックします

表示されない、またはすでにオンの場合は手順⑦まで進みます

設定のアカウント、ユーザーの情報が自動で表示されます

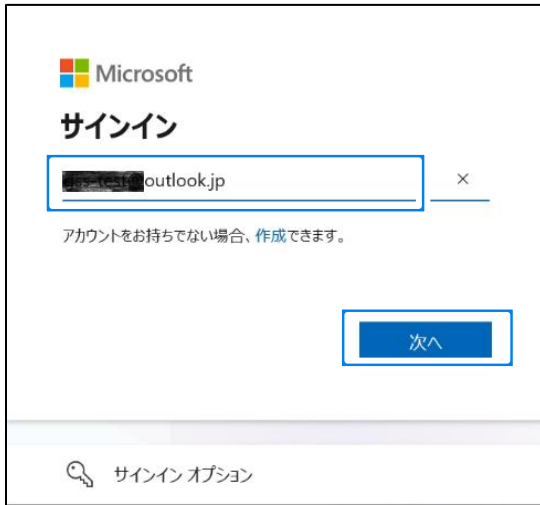
「Microsoftアカウントでのサインインに切り替える」をクリックします

「サインイン」のウィンドウが表示されます

次のページでMicrosoftアカウントの有無により、手順が別れます

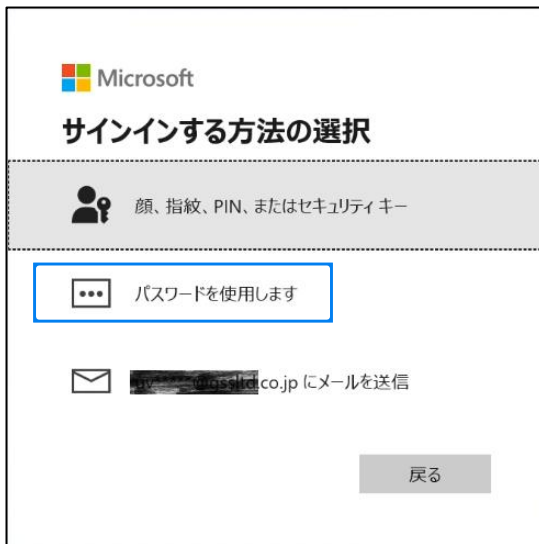
- Microsoftアカウントをお持ちの方は、手順⑨へ進みます。
- Microsoftアカウントをお持ちでない方は新規作成を行ってください、**青文字の「作成」**をクリックし、画面表示に従ってください。作成後は手順⑫からお進めください。

⑨



Microsoftアカウントを入力し、
“次へ”をクリックします

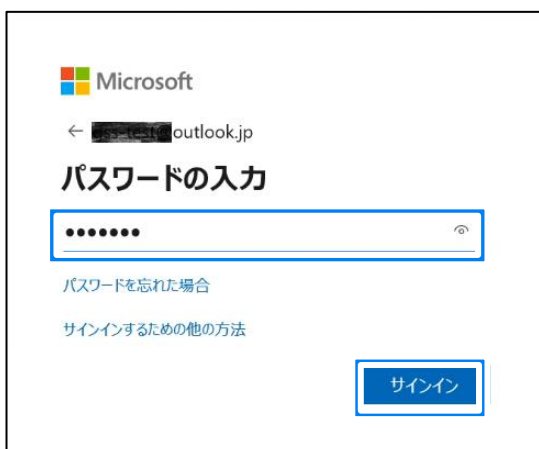
⑩



サインインする方法の選択が表示されたら、
顔、指紋、PIN、またはセキュリティキー
パスワードを使用します
〇〇@××.co.jp にメールを送信
のいずれかを選択します。

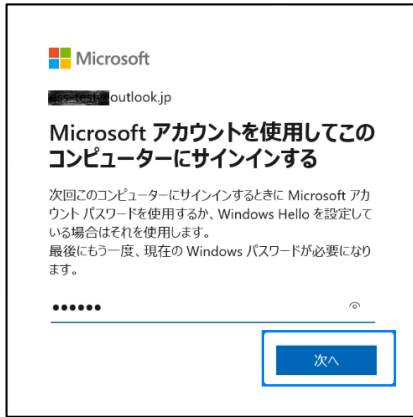
本テキストでは“パスワードを使用します”
を選択しています。

⑪



Microsoftアカウントのパスワードを入力し、
“サインイン”をクリックします。

12



Windowsに設定したパスワードを入力し、“次へ”をクリックします

13



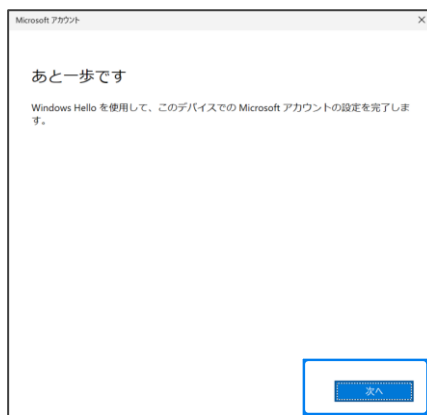
パソコンの機種によっては指紋認証の設定を促す画面が表示されます

あとで設定する場合は下にスクロールし、“今はスキップ”をクリックします

14



顔認証の設定が表示された場合もあとで設定する場合にも下にスクロールし、“今はスキップ”をクリックします



【表示がされた場合】

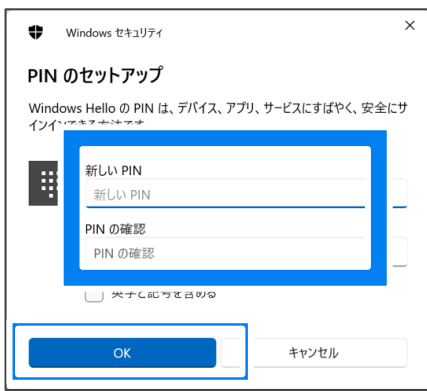
「あと一步です」が表示されたら“次へ”をクリックします

表示がされない場合も問題はございません、表示されない場合は次の手順に進みます

15



16



17



18



「PINの作成」が表示されたら「次へ」をクリックします

既に設定されていて表示されない場合は、ユーザー確認画面が表示されますので、設定済みのPINを入力し⑱へお進み下さい

PINコードを登録します

Windowsの起動時にパスワードの代わりに入力することでログインが可能です

4文字以上で、数字のみもしくは、英字・記号を含めたコードを設定できます

確認として同じコードを2回入力し、

“OK”をクリックします

ユーザーの情報に戻りますので、

“プライバシーとセキュリティ”をクリックします

“デバイスの暗号化”の表示をクリックします

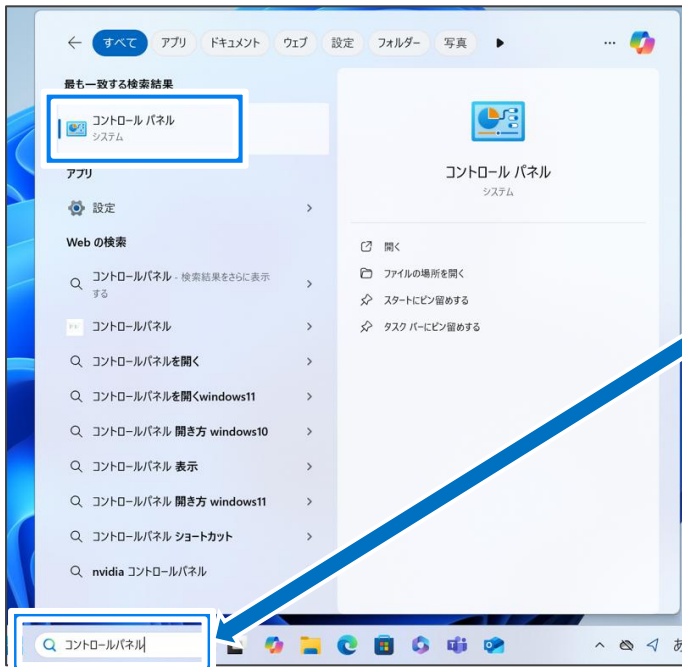
「デバイスの暗号化」がオンになっていることを確認します

次のページから、暗号化状態で

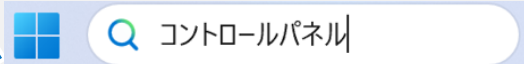
ロックされてしまった場合の回復

キーの確認を行います

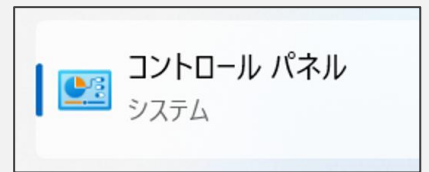
19



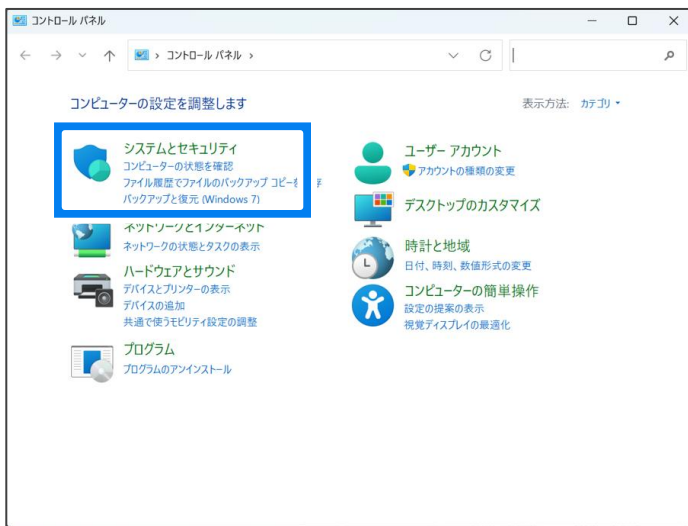
Windowsの検索ボックスに入力を行います、ボックスが開いていない場合は虫眼鏡の検索アイコンをクリックします



「コントロールパネル」と入力します、画面の上の方に下図の表示がされますので、クリックします



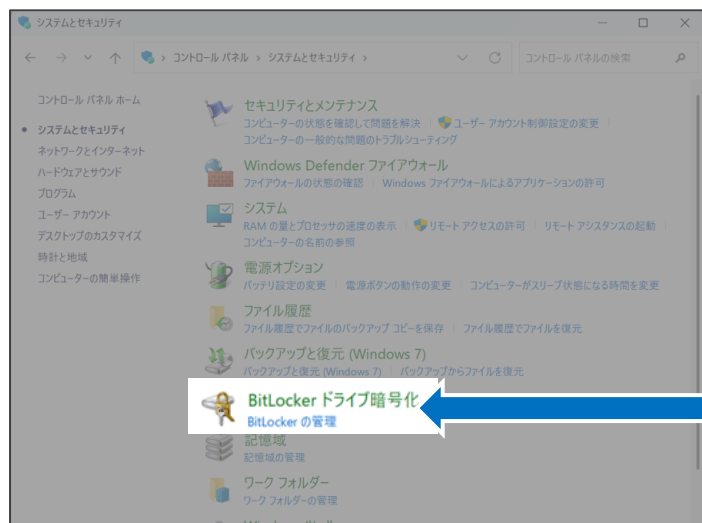
20



コントロールパネルのウィンドウが開きます

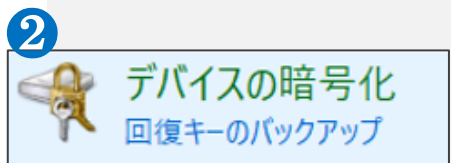
「システムとセキュリティ」をクリックして開きます

21

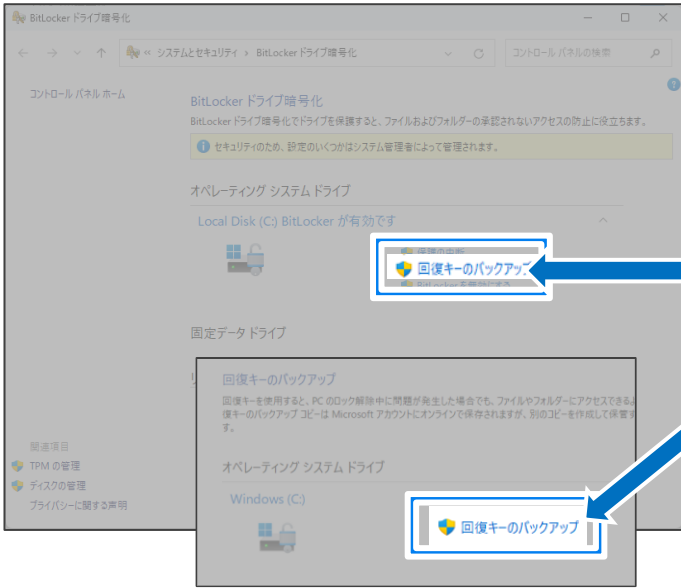


下記の表示部分をクリックします

機種により、2種類がありますので、表示されたアイコンをクリックしてください



22



回復キーのバックアップ

機種の違いにより、左図の表示が異なりますが、どちらの場合も「回復キーのバックアップ」をクリックしてください

23

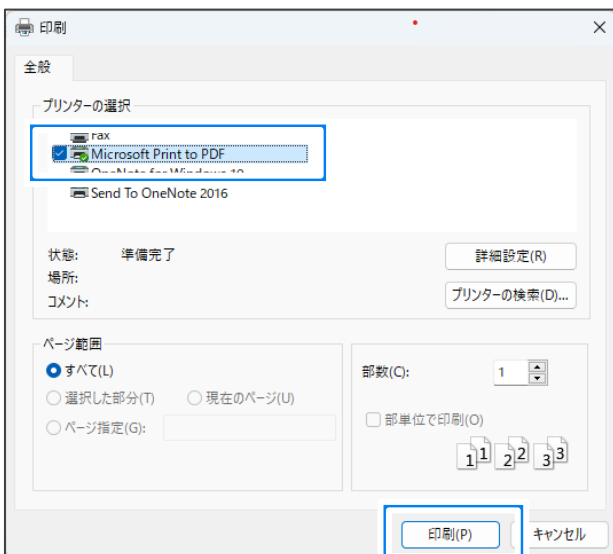


回復キーのバックアップ方法を選択する画面が表示されます

「→回復キーを印刷する(P)」をクリックします

プリンターをお持ちでない、また、接続をしていない場合でも問題はございません

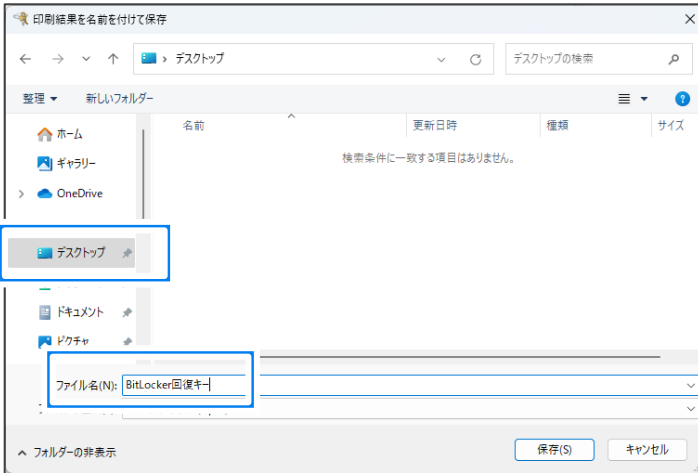
24



「印刷」画面が表示されますので、「Microsoft Print to PDF」をクリック選択し、「印刷(P)」をクリックします

“Microsoft Print to PDF”が表示されない場合や、プリンターを既に使用されている場合は、直接紙に印刷していただいて結構です

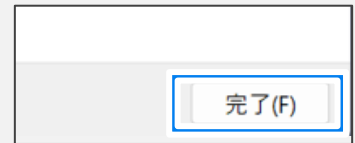
25



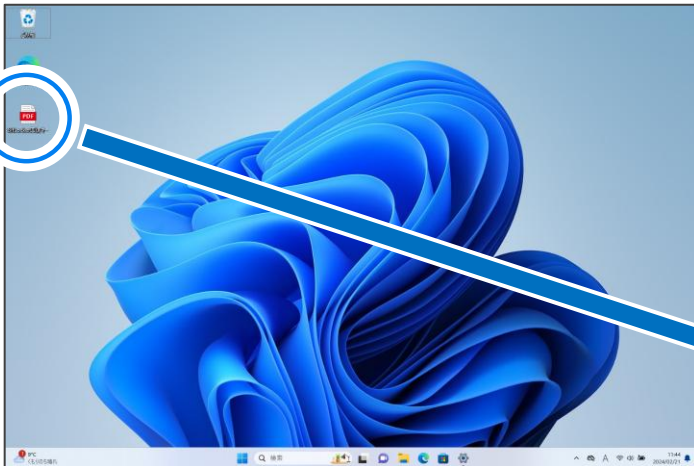
「印刷結果を名前を付けて保存」が表示されますので、ファイル名を入力、保存先を指定して、「保存(S)」をクリックします

ここでは、保存先を「デスクトップ」、ファイル名を「BitLocker回復キー」としています

バックアップ方法指定の画面は、「完了」をクリックして閉じてください



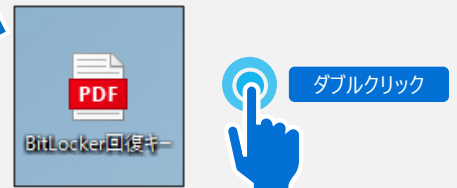
26



保存先である「デスクトップ」にファイルが作成されていることが確認できます

作成されました、

「BitLocker回復キー」ファイルをダブルクリックし、ファイルを開きます



27



Microsoft Edgeが起動します、初回起動の場合は左の画面が表示されますので、以下のように進めます

- ・「ユーザーデータを使用せずに開始」
- ・「確認して続ける」
- ・「Googleデータなしで続行する」
- ・「確認して閲覧を開始する」

28



Microsoft Edgeが起動し、回復キーが表示されます、画面を写真撮影、印刷をして記録されることをお勧めいたします

下記メモ欄もよろしければご使用ください

ウィンドウは右上の“X”をクリックして画面を閉じます

6桁ずつ、全48文字で構成されています

次のページは参考です、暗号化をオフにする方法です

回復キー手書き記録欄

6桁			6桁			6桁			6桁		
6			12			18			24		
6桁			6桁			6桁			6桁		
30			36			42			48		

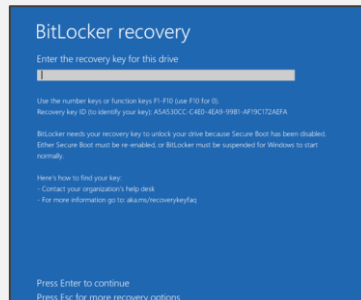
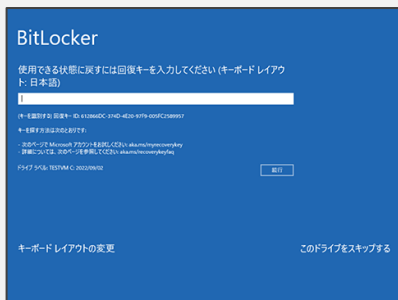
**暗号化のオフ、オンを行いますと回復キーが変更されます
その都度、バックアップを実施してください。**

参考

回復キーはMicrosoftアカウント情報に保存されています。
以下のURLよりご確認が可能です。

<https://account.microsoft.com/devices/recoverykey>

下の画面はセキュリティ機能が動作し、パソコンがロックされた状態です。
この場合に回復キーを入力し、ロック状態の解除を行います。



【参考】暗号化機能が不要と判断された場合や、修理が必要な際にあらかじめ暗号化を解除する場合にご参照ください

* オンのまま使用する場合、次の「Windows Updateについて」へお進みください

画像は一例です、メーカーや機種により表示が異なる場合があります、

①

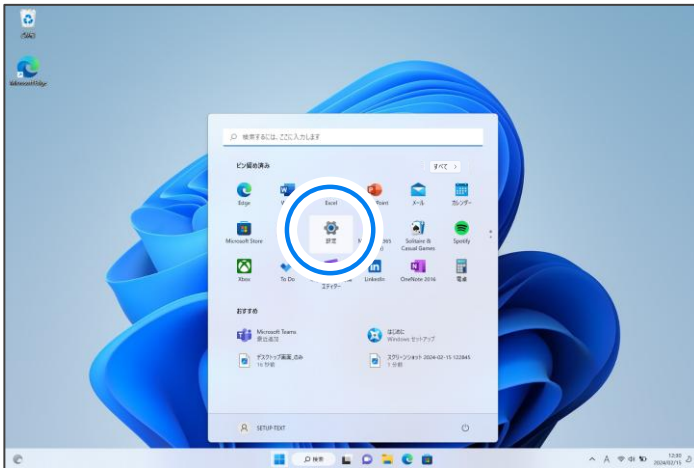


“スタートボタン”をクリックします



←“スタートボタン”

②



“設定”をクリックします



←“設定”アイコン

③



“プライバシーとセキュリティ”をクリックします

“デバイスの暗号化”が表示されますのでクリックします

④



暗号化の状態を確認します

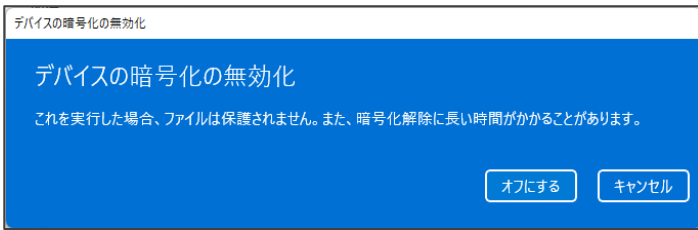
-  オンの状態
-  オフの状態

⑤



“オン”をクリックし、“オフ”の状態にします

⑥



「デバイスの暗号化の無効化」のウィンドウが表示されます

“オフにする”をクリックします



「暗号化解除が進行中です

デバイスを引き続き使用できます。」と表示されたのちに、

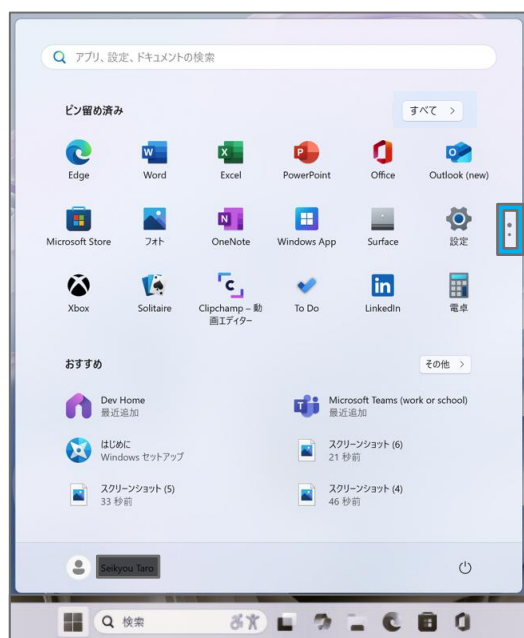
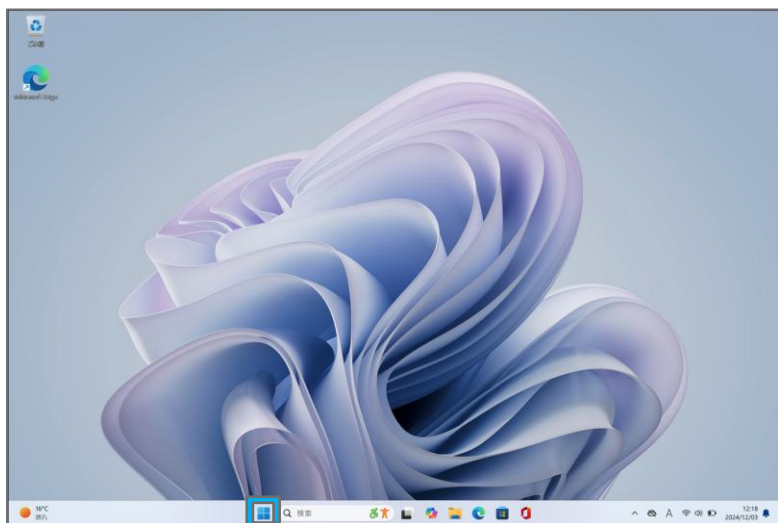
オフの状態になります

⑦



再度、機能をオンにする場合は回復キーのバックアップも忘れずに行ってください

* 画面は一例です、ご使用のパソコンと異なる場合があります



起動後、ログイン画面でパスワードを入力しサインインすると、右のようなデスクトップ画面になります（起動時にロック画面が表示されログイン画面にならないときは画面を一度クリックしてください）

デスクトップ画面で画面中央下のスタートボタンをクリックするとスタート画面を表示します

このスタート画面で起動したいアプリを選びクリックして実行します

スタート画面上部にはピン留め済みのアプリのアイコンが表示されます。右側にある丸をクリックする事で表示ページを切り替えることができます

※マウスカーソルをスタート画面のピン留め済みに合わせスクロールをすることでページを切り替えることもできます

スタート画面下部には「おすすめ」は直近でよく使用されているアプリが表示されます

次ページから詳細を説明します

【インターネットブラウザ「Edge」（エッジ）について】

Windows 11 ではインターネットを見るアプリ（ブラウザ）はEdgeを使います（従来のWindowsのブラウザは「インターネットエクスプローラ（IE）」でした。）インターネット接続環境が整ったらEdgeを使ってインターネットを利用してください



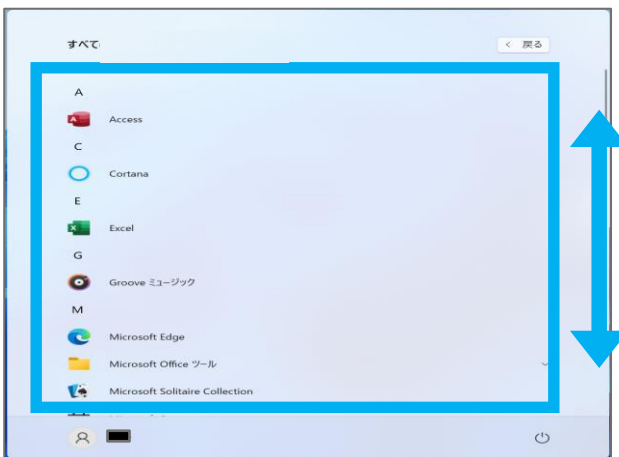
※説明の図にあるアイコン群は例であり、お手元のPCと異なる場合があります



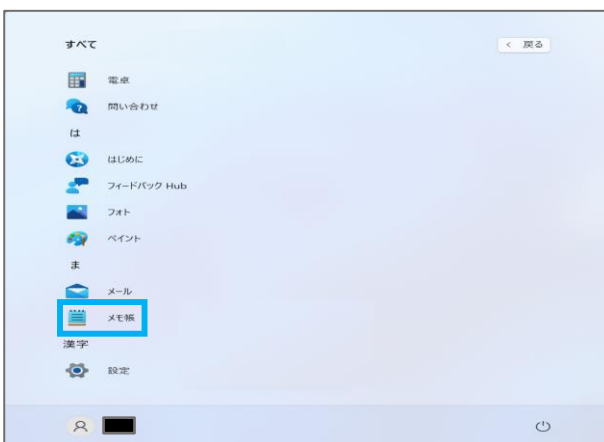
スタート画面に表示されている
アプリのアイコンをクリック
するとアプリが起動します

スタート画面の上部にある
[すべて] をクリックすると、インストール
されているアプリの一覧を表示されます

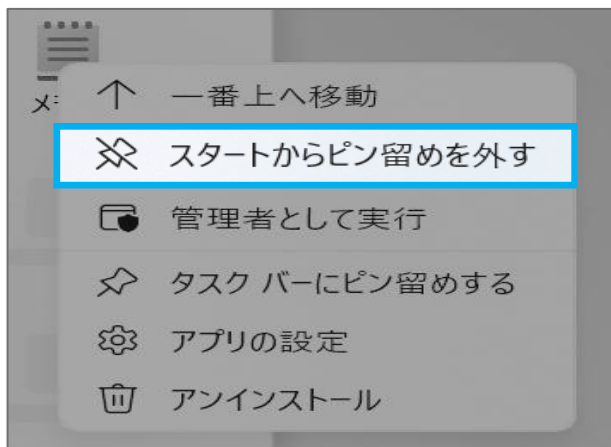
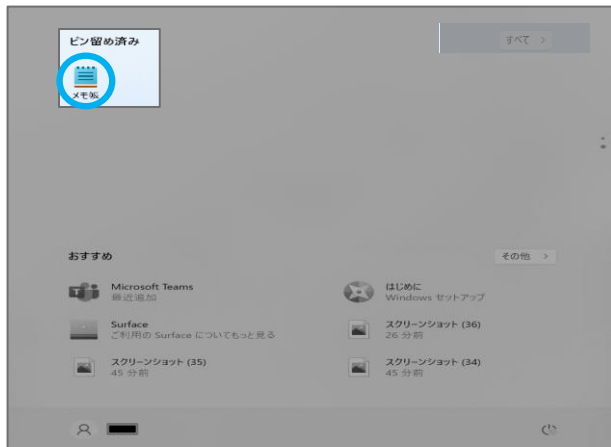
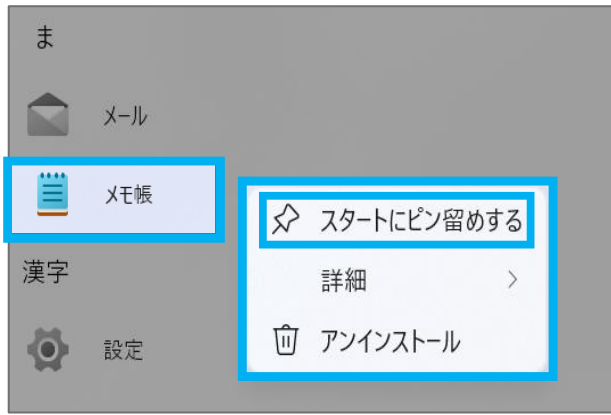
一覧の続きを見る場合は
枠内にマウスカーソルを合わせ、
画面を上下にスクロールします



目的のアプリが見つかったら、
アイコンをクリックして
起動します



実行したいアプリのアイコンの絵や文字の部分で**クリック**



タイトル画面のカスタマイズ

スタート画面上部の [ピン留め済み] によく使うアプリを追加することができます

～ 例、アプリ「メモ帳」をピン留めします ～

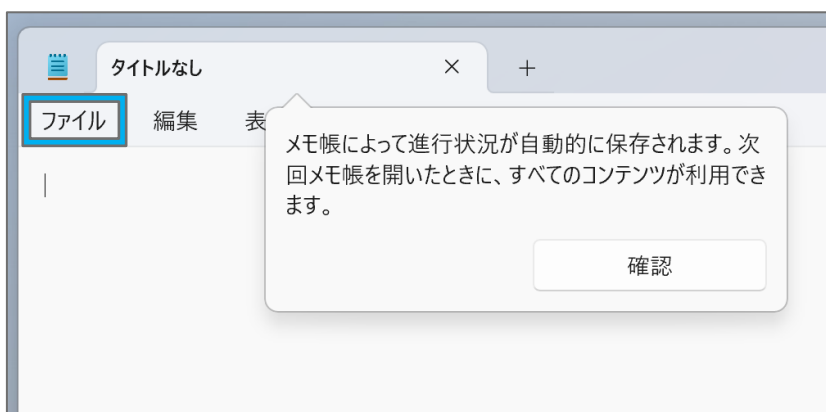
※アプリ「メモ帳」は、[すべて] 内の [ま行] にあります
一覧画面で目的のアプリ、ここでは「メモ帳」を探し、右クリックします

表示されたメニューの「スタートにピン留めする」をクリックします

ピン留め済み内の位置の変更や、不要なものは削除できます

・位置の変更
移動させたいアプリをドラッグしてみてください、位置が変更できます

・削除（一覧画面からは削除されません）
タイトルを右クリックします。表示されたメニューで「スタートからピン留めを外す」をクリックします



タイトル画面のカスタマイズ

～アプリ保存の例、メモ帳の場合～

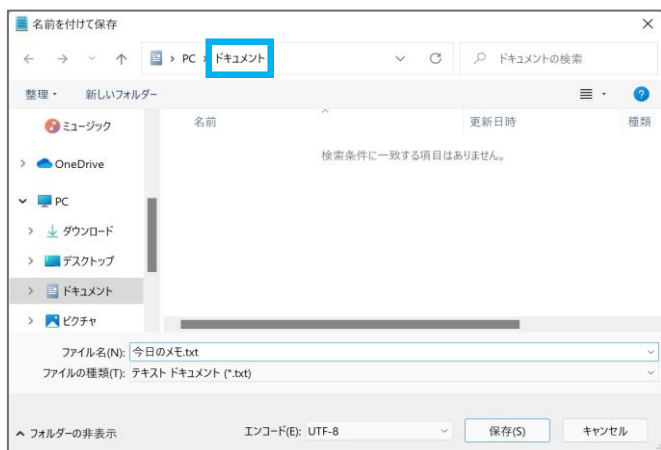
「ファイル(F)」をクリックすると

メニュー中央部あたりに

「名前を付けて保存(Ctrl+Shift+S)」が

あるので、クリックすると

左下のような画像が出てきます



終了時、変更や新しく作ったファイルを保存する場合は「名前をつけて保存」画面になりますがその際、ファイルをどこに保存したかは、下図を参考に意識して覚えておいてください

ここに注目。ここでは「ドキュメント」に保存しています

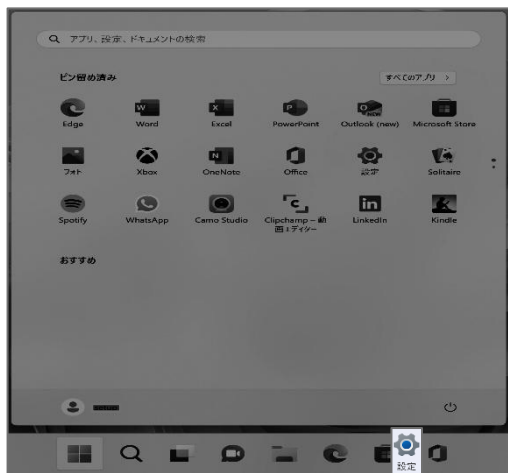
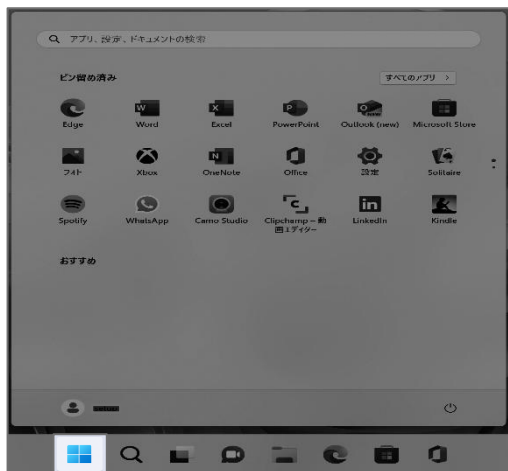
後日、保存したファイルを探すときは「ドキュメント」の中を探します。

Windowsアプリの終了は画面の右上の×をクリックします

～アプリの終了～

画面右上の×をクリックします





※以下の手順はローカルアカウントでログインをしている場合のパスワード変更手順です
Microsoftアカウントでログインをしている場合は、Microsoftが指定している手順に従いMicrosoftアカウントのパスワード変更を行ってください

画面中央下部にある「スタートボタン」をクリックし、スタートメニューを表示させます

スタートボタンのアイコン：

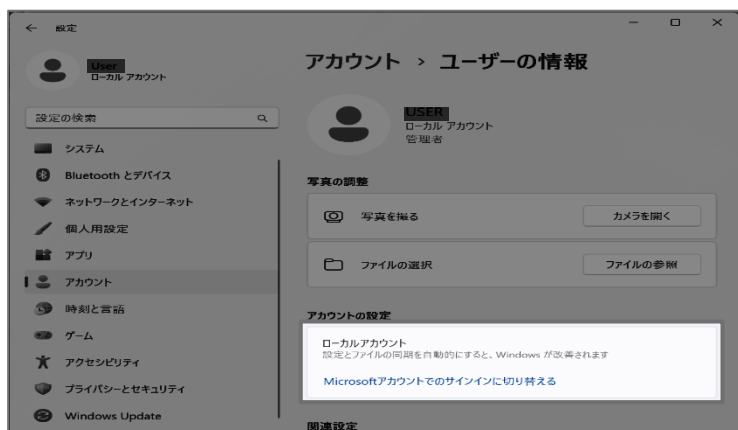


スタートメニュー内にある「設定」をクリックします

設定のアイコン：



設定メニュー内の左側の「アカウント」をクリックし、右側の「ユーザーの情報」をクリックします



{Microsoftアカウントとの関連付け}

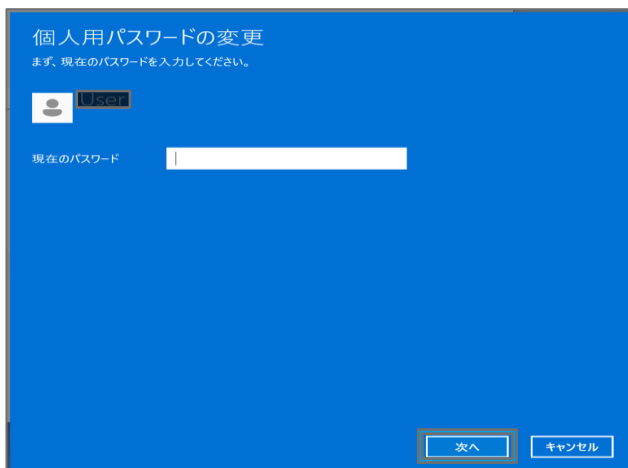
インターネットにつなぎ、「Microsoftアカウントでのサインインに切り替える」を実行すると、マイクロソフトアカウントが必要なアプリ (OneDriveなど) が使用できるようになります
 必要な場合は、セットアップ完了後設定して下さい



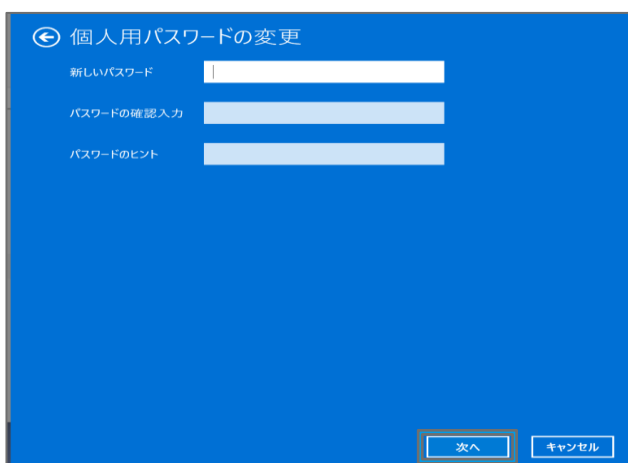
設定メニュー内の左側の「アカウント」をクリックし、右側の「サインイン オプション」をクリックします



右側の「パスワード」をクリックし、すぐ下に変更と表示されるので、【変更】をクリックします



設定されている現在のパスワードを入力し、【次へ】をクリックします



①新しいパスワード、
②もう一度、新しいパスワード
③パスワードのヒント
を入力して「次へ」をクリックします

新しいPass _____.

次の画面で「完了」をクリックして終了です

Windows Updateとは？



Windows Updateとはインターネットを通じてWindowsやOffice製品（WordやExcelなど）の発売後に見つかった問題を修正したり、新しい機能を追加する作業のことです。

他にもウイルスが忍び込むセキュリティホール（セキュリティの欠陥）をなくし、悪質な攻撃に負けないように、強化することもWindows Updateでは行われます。

通常はWindows Updateの自動更新が有効になっているので、定期的に更新されるようになっています。とても便利な機能ですが、更新中はパソコンが少々遅くなったり、パソコンの再起動が必要な場合もあり、面倒に感じることもあります。

しかし、Updateをせずに使い続けると、不具合が修正されなかったり、セキュリティの欠陥が残ってしまうなど、とても危険です。

セキュリティを向上させたり、不具合を解消する機能がWindows Updateです。Windows Updateを行わないとトラブルの原因になったり、ウイルスに感染してしまう可能性があります。

パソコンを安全に使い続けるために、常に最新のバージョンにしましょう。

Windows11の不具合やセキュリティ上の問題が発見された場合、修正する更新プログラムがインターネット上に公開されます。

この更新プログラムをダウンロードし、Windowsを最新状態に保つのがWindows Updateです。Windows Updateはインターネットにつながることにより自動で行われます。

パソコンを購入した際には、メーカーの生産からお手元に届くまでの間に修正プログラムがたまっている為、必ずWindowsUpdateを行って最新の状態にする必要があります。

注意点

Windows Updateはインターネットに接続することにより自動で行われます。言い換えれば、ネットにつながないとUpdateは行われず、最新の状態に保てません。普段ネットにつながない方も定期的につながるように心がけてください。アップデートは、電源ケーブルを接続した状態で行ってください。

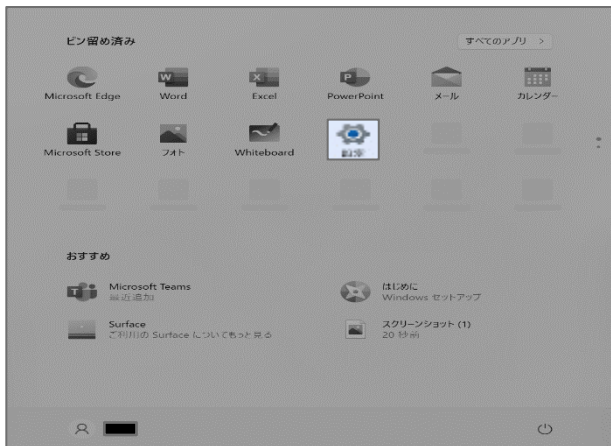


Windows Updateのダウンロード中やインストール中はパソコン全体の動作が遅くなります。異常ではありませんので、そのままご使用ください



Windows Updateを行った後、Windowsのシャットダウンが上記の様な画面になり、通常以上の時間が（10分～30分以上）かかることがあります
それはパソコンがUpdate後の再設定をおこなっていますのでその際は電源を無理やり切らずに自然にシャットダウンされるのを待ってください

※異常状態が長く続くとき(20分以上画面が変わらない等)は電話サポートにお問い合わせください



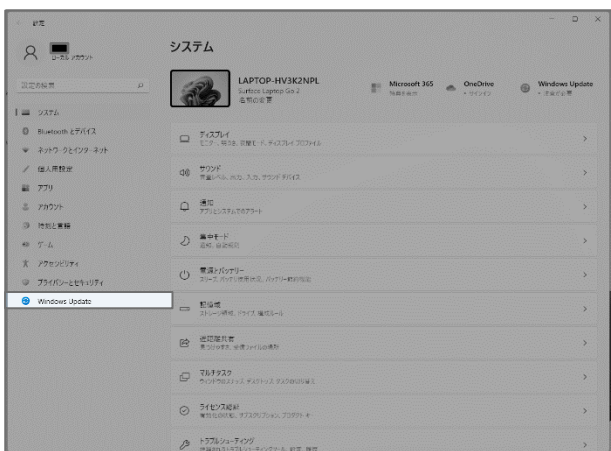
Windows Updateの停止作業について

Windows 11 ではデバイスの安全と新機能追加のため、更新プログラムのダウンロードが自動的に行われます

ただ、講習会参加者の一斉ダウンロードによるネットワーク遅延を抑えるため、更新延期の設定を行います

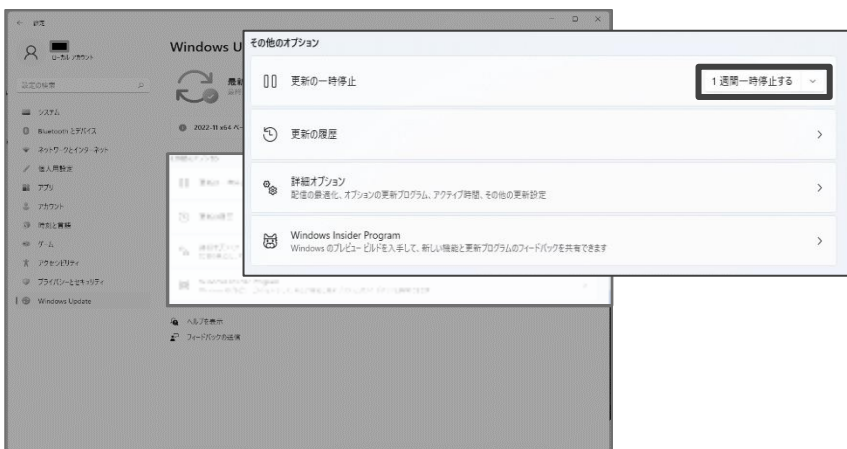
自宅でセットアップする場合はこの作業を行う必要はありません

スタート画面から[設定]をクリックします



Windows の設定が表示されます

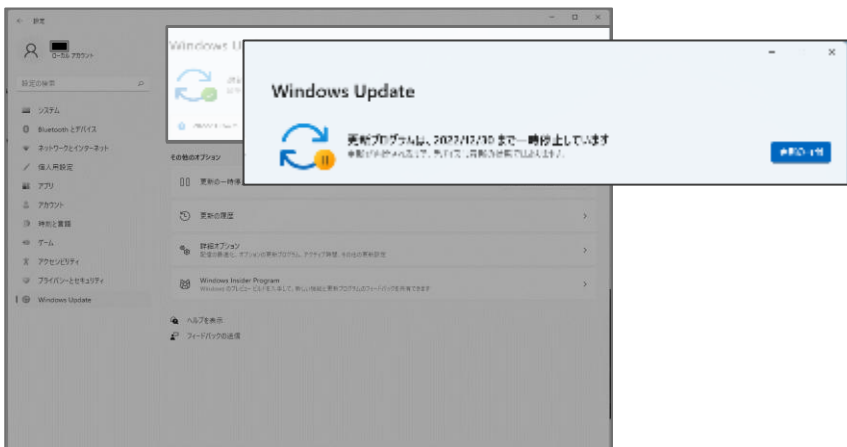
下部の[Windows Update]をクリックします



Windows Update の設定が表示されます

「Windows Update」の項目内にある更新の一時停止欄の

「1週間一時停止する」を1度だけクリックします



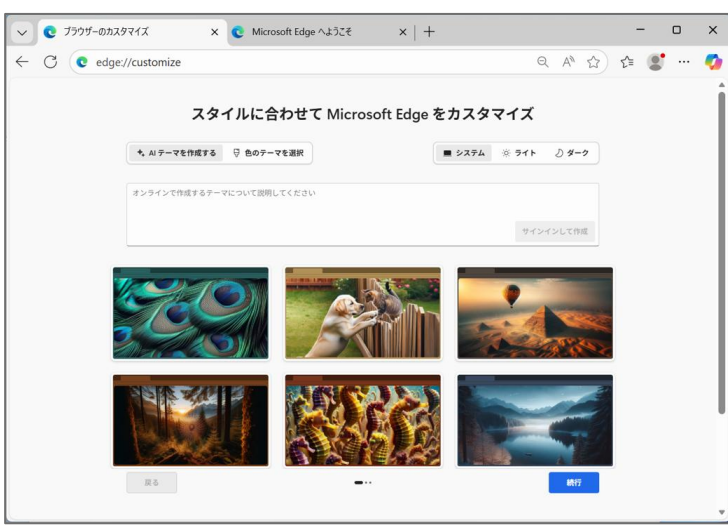
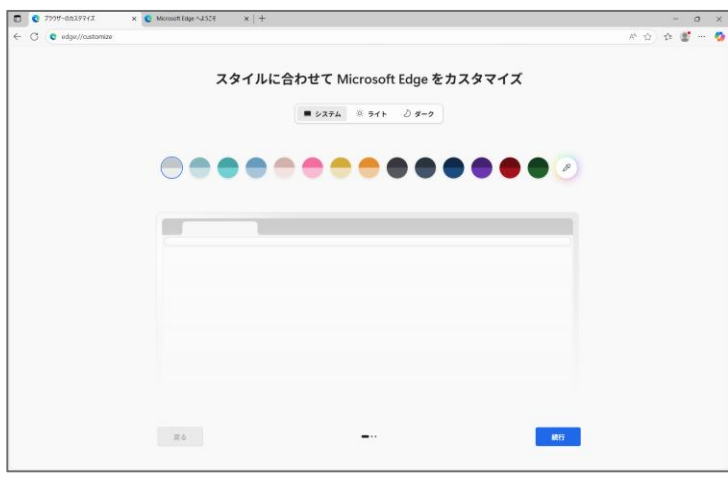
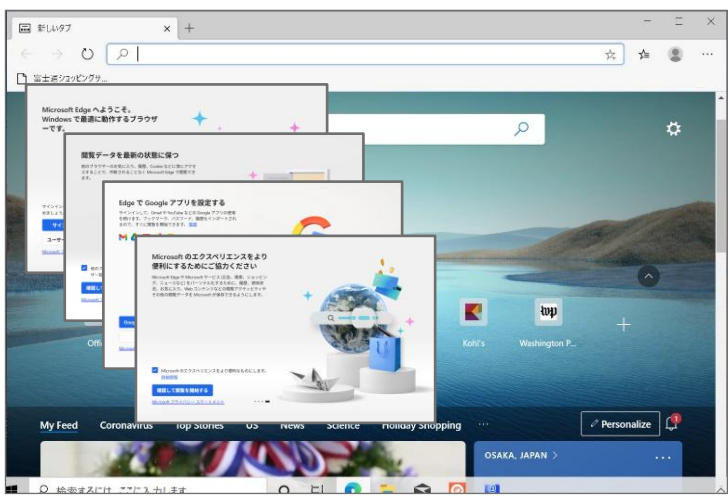
「更新プログラムは、年/月/日まで一時停止しています」と表示されます

右上の[×] をクリックし設定ウィンドウを閉じます

Windows Update の自動ダウンロードと更新は7日後に再開されます



Edgeのアイコン



Windows11 でインターネットを見るときは Edge (エッジ) を使用します

①ここではインターネット接続ができていることの確認の意味も込めてマイクロソフトエッジを起動します

スタート画面やデスクトップ画面にあるEdgeのをクリックします

マイクロソフトエッジが起動します

※初回起動時は

・【Microsoft Edgeへようこそ。Windows ~】は【ユーザーデータを使用せずに開始】をクリック

・【閲覧データを最新の状態に~】は【確認して続ける】をクリック

・【EdgeでGoogleアプリを~】は【Googleのデータなしで続行する】をクリック

・【Microsoftのエクスペリエンスを~】は【確認して閲覧を開始する】をクリック

・【Googleからの閲覧データのインポートをお手伝いします】は【このデータを使用せずに続行する】をクリック

・スタイルに合わせてMicrosoft Edgeをカスタマイズ

好みに合わせて、ウィンドウの色やテーマを選んで【続行】をクリックします

(左の画面は一例です、パソコンや設定により初期画面は異なります)

「表示された場合」

・スタイルに合わせてMicrosoft Edgeをカスタマイズ

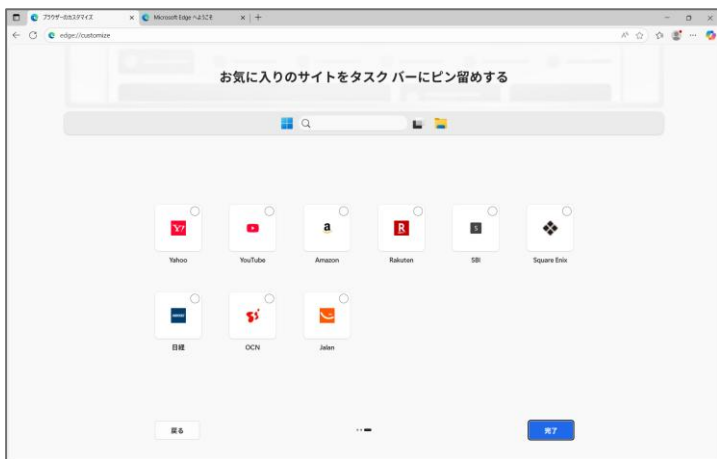
背景表示や色をお好みで選択します

【続行】をクリックします



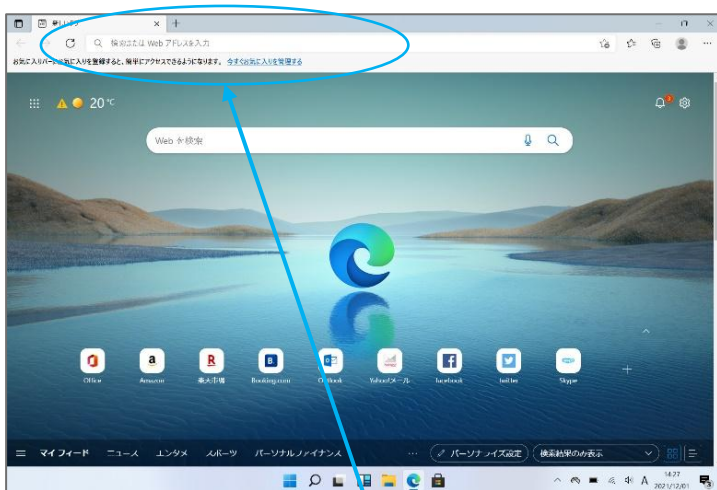
・レイアウトの選択

お好みの表示レイアウトを選んで【続行】をクリックします、最初はレイアウトを変更せずに使用されることをお勧めします



・お気に入りのサイトをタスクバーにピン留めする

頻繁に利用するWEBサイトを上部のタスクバーに表示させ、直ぐにアクセスすることができます、ご利用されるサイトに任意でチェックを入れ、右下の【完了】をクリックします



アドレスの領域



②スタートのページが表示されます、見たいホームページアドレスを入力します

たとえば、Googleなら www.google.co.jp と入力し、Enter を押します。

一般にホームページアドレスのhttp://は入力時省略できます。
http://www.google.co.jp → www.google.co.jp

ヒント💡

表示されている文字をBackspaceキー等で削除し、空白にしてから新たにアドレスを打ち込みます



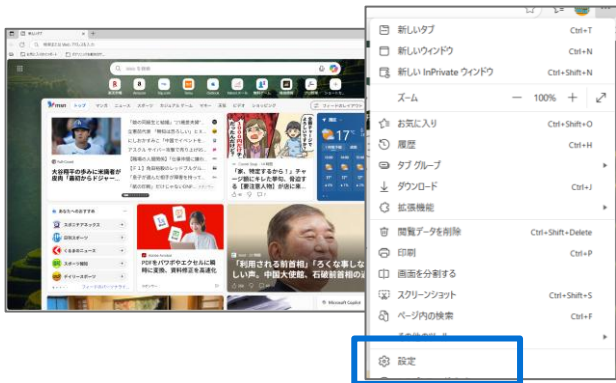
Edgeを起動した時に、最初に表示されるWebページは変更できます

例として、Googleに変更する方法を紹介します

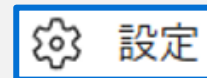
Edge(エッジ)

【変更手順】 Edgeを起動し、設定画面で設定変更します

①



①画面右上の「...」をクリックして出てきたメニューの「設定」を選択してください

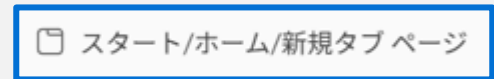


②



②開いたウィンドウ左側の「スタート／ホーム／新規タブ ページ」をクリックしてください

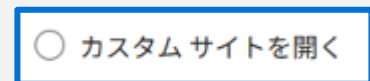
「スタート／ホーム／新規タブ ページ」をクリックしてください



③



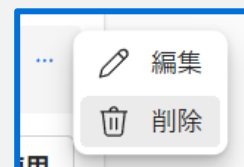
③「起動時」の選択枝から、「カスタムサイトを開く」をクリックします



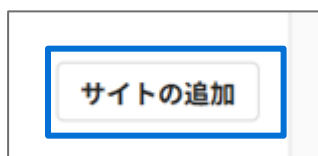
④



④この例では「サイト」の欄にYahoo!のページが設定されています、右側の「...」をクリックして削除をクリックします



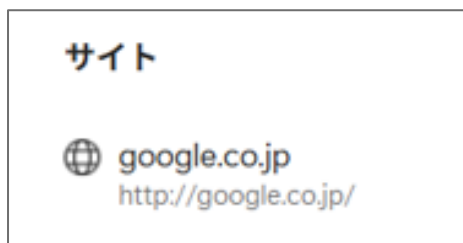
⑤



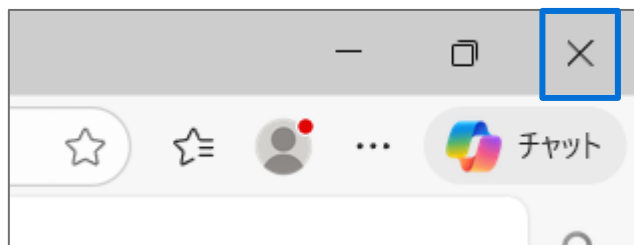
⑥



⑦



⑧



⑤ サイトが削除されたら「サイトの追加」をクリックします

⑥ GoogleのURLを入力します、
(httpsやwwwは省略可能です)
入力後に「追加」をクリックします

⑦ サイトにGoogleのURLが表示されていることを確認します

複数ページの起動登録もできるので、よく使うページを登録してみましょう

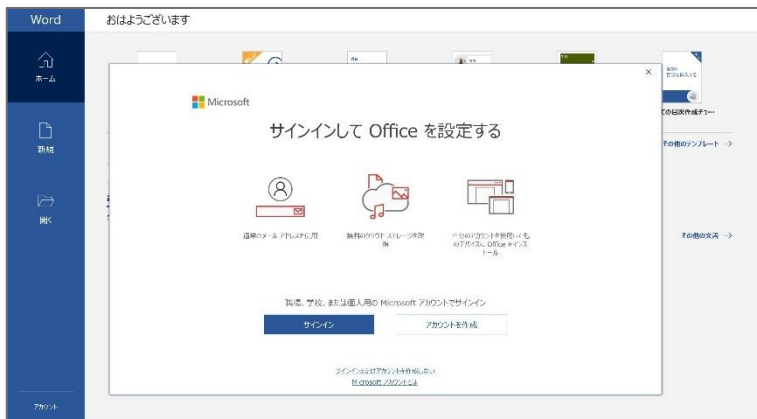
⑧ Edgeを一旦閉じて、再度開くと
GoogleのWEBサイトが表示されます。



ライセンス認証には大学もしくは生協から提供されるID・パスワードが必要です

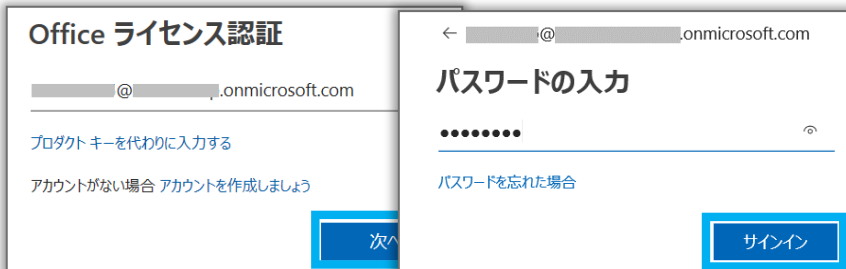
[スタート]メニューからいずれかの Microsoft365 のアプリケーションを起動します

(Word/Excel/PowerPointなど)



アカウントでのサインインを促す画面が表示されます

[サインイン] をクリックします



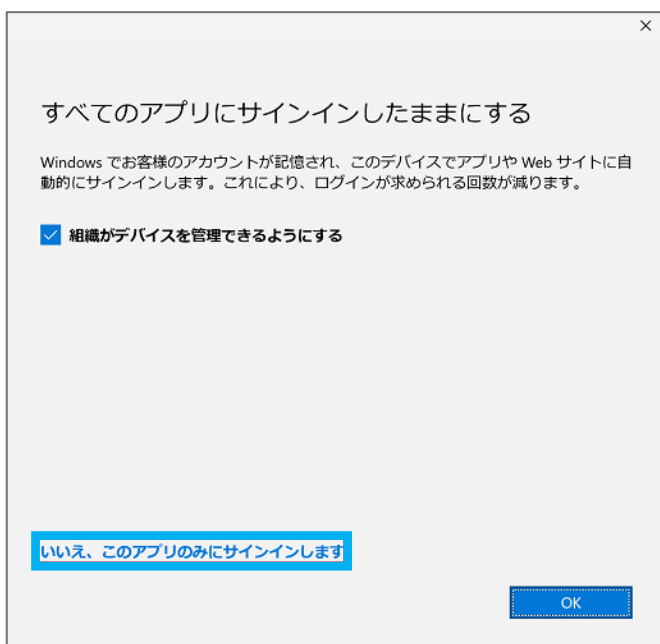
ID・パスワードを入力し、[次へ]をクリックします

ライセンス認証に用いるID(メールアドレス)

~@~ac.jp もしくは

~@onmicrosoft.com

※大学によっては学内システムによるID・パスワード入力画面が表示されます



しばらくすると[すべてのアプリにサインインしたままにする]という表示が出てきますので、

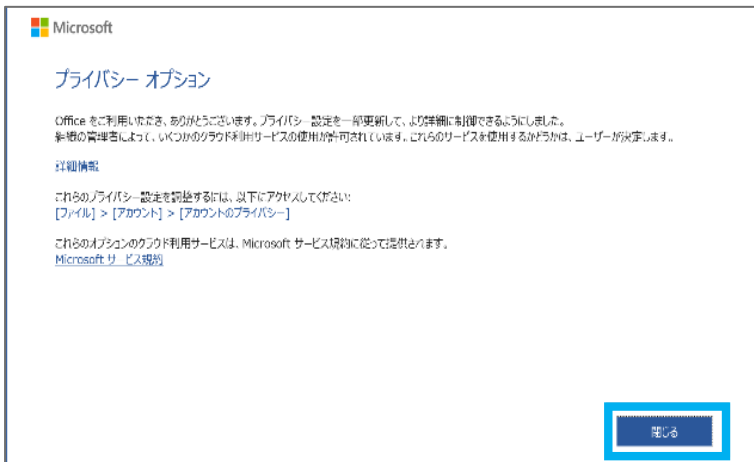
左下の【いいえ、このアプリのみにサインインします】をクリック



ライセンス認証には大学もしくは生協から提供されるID・パスワードが必要です

しばらく待つと「ライセンス契約に同意します」という画面が表示されます

[同意する]をクリックします

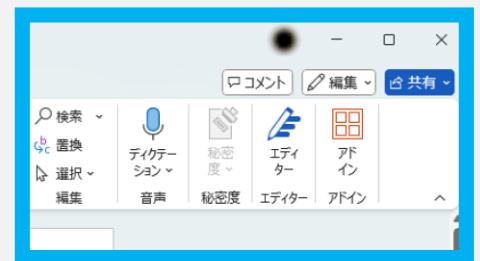


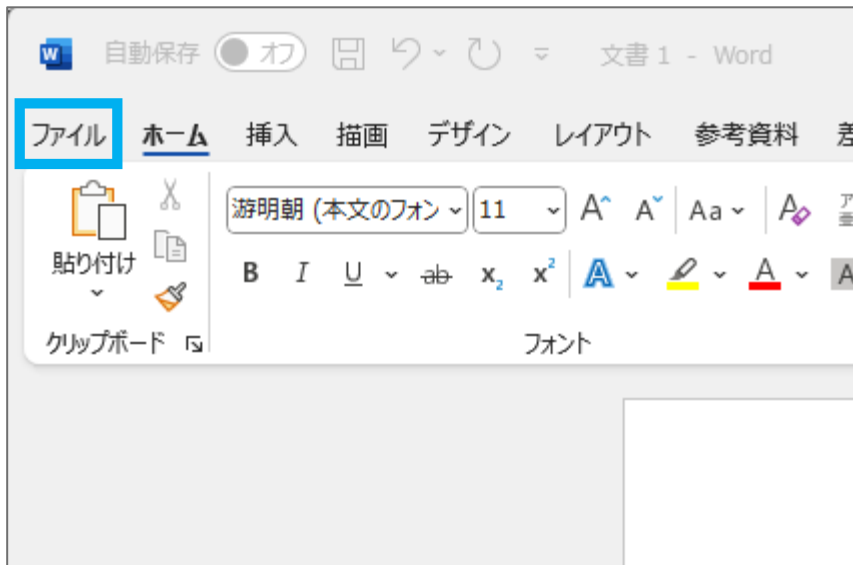
プライバシーの利用に関するメッセージが表示されます

[閉じる]をクリックします



Microsoft365 アプリケーションのウィンドウ右上にサインイン状態を示す情報が表示されます





Microsoft365 アプリケーション利用には定期的な更新プログラムの適用が必要です

安定したネットワークでSurfaceを利用していれば自動的に適用されます

ここでは手動で更新適用する方法を紹介します

はじめに、インターネットへ接続していることをご確認ください。

1. Word などの Microsoft365 アプリを開き、新しいドキュメントを作成します

2. [ファイル]、[アカウント]の順に移動します

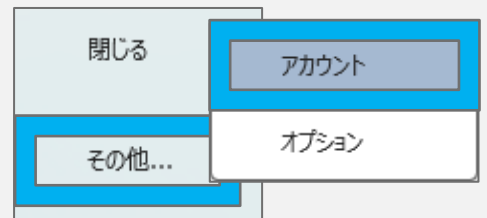
※アプリケーションの表示の大きさにより

「その他...」の表示になっている場合があります

その場合は、

「その他...」をクリック、「アカウント」

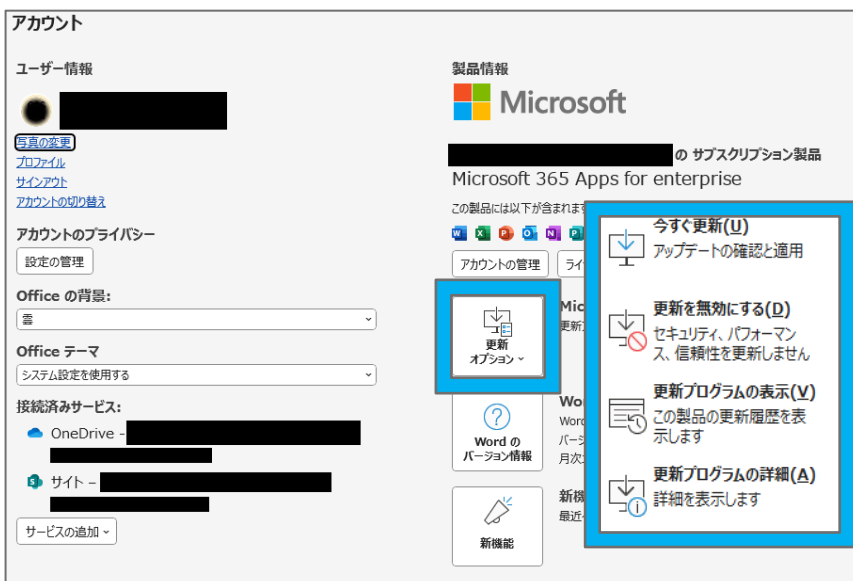
をクリックします



※ Outlook を開いている場合は [Office アカウント]に移動します

※左図はWordの画面です

3. [製品情報] で、[更新オプション]、[今すぐ更新] の順に選びます

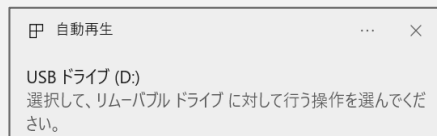
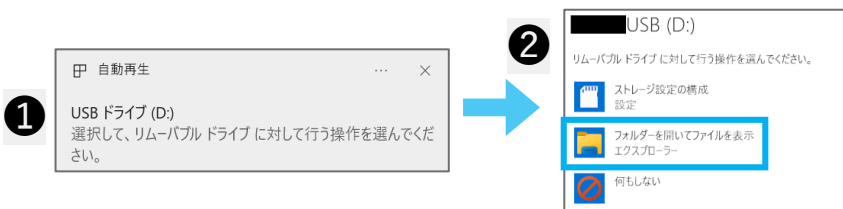




USBメモリはセットアップ講習会で貸与するものです

USBメモリをSurface 左側面の USB ポートに接続します

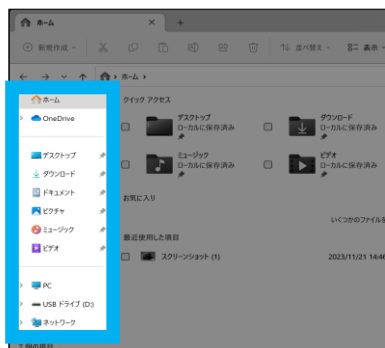
画面右下のメッセージと音でUSBメモリが認識されたことがわかります



①デスクトップ画面下部にあるフォルダのアイコンをクリックします

もしくは、

- ①右下のメッセージをクリックします。
 - ②右上に表示される「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックすると、
- エクスプローラーのウィンドウが表示されます

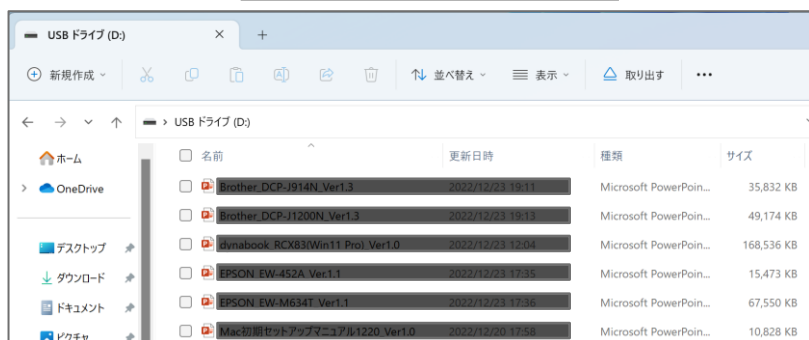


ウィンドウ左列から末尾に(D:)と書かれたアイコンをクリックします

名前は異なる場合があります以下は一例です
[USBドライブ(D:)]

[リムーバブルディスク(D:)]

クリックすると、保存されているファイルが確認できます

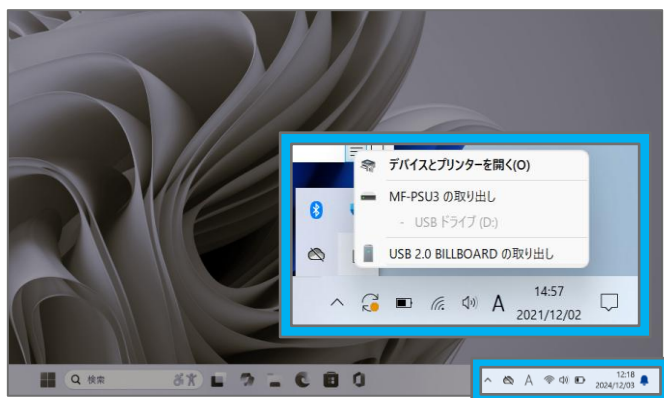


USB機器の取り外し

デスクトップ右下の[⌘]アイコンをクリックします

USBメモリのアイコンをクリックし、[～の取り出し]をクリックします

メッセージと音で取り外し可能な状態になったことがわかります
USBメモリを取り外します



パソコンの保存データのバックアップについて簡単に説明します

バックアップの必要性

パソコンは人が作った機械です。必ずいつかは壊れます。
また、取り扱いや運が悪いと短期間で故障することもあります。
パソコンが故障してしまったときには、保存されていたファイルが壊れたり修理に出した際にデータが「全て消去」される場合が多々あります。
また、うっかりミスで大事なデータを消してしまったり、悪意でデータを消してしまう「コンピュータウイルス」にかかることもあります。
そのような時の為に、大事なデータは定期的に「バックアップ」をして下さい。

バックアップの基本

基本は「パソコンが壊れて自分が苦勞して作ったデータが消えてなくなることを防ぐこと」です。原則は「大事なデータは2か所に保存」（パソコンと外部ストレージの2か所に保存が基本）です。
理由は「二つの機械が同時に壊れることはまずない」からです。

バックアップ方法

「バックアップ」は難しいことではありません。上記の基本を参考に、大事なデータをUSBにつないだ外部ストレージや下記の光学ディスクにも保存してください。それだけで完了です。

バックアップの時期

毎月始め等、定期的に計画して行いましょう。
また、大事なレポート作成中は随時（毎日、毎時、休憩毎）に実施。

バックアップに必要な機器（別途購入が必要）



① 外付けハードディスク（HDD）

最近では、「小型」で「大容量」のUSB接続のHDDも多く販売されています。USBポートに差込むだけで、簡単に使えます



② USBメモリ

USBメモリも、USBポートに差込むだけで使えます。小型ですので持ち運びにも便利です。HDDより小容量です



③ CD-RやDVD-Rなどの光学ディスク

CD-RやDVD-Rなどのディスクに保存も出来ます
ディスクなどメディア自体は安価です

アップデート

ソフトウェアの小規模な更新、改善、修正、機能追加などのことを呼びます。大規模な更新の場合はアップグレードと呼びます。

アプリケーションソフト、アプリ

文書の作成、数値計算など、ある特定の目的のために設計されたソフトウェアのことを呼びます。

インストール

パソコンでアプリケーションソフト（Wordやメールソフト等）が使用できるように設定する為の作業です。

シリアル番号

ハードウェアのメーカー側で所有者の管理や偽装を防止するなどの目的で製品ごとに割り当てた番号。修理に出したり、ユーザー登録時に必要になります。

ソフトウェア

OSとアプリケーションソフト等のプログラムの総称をソフトウェアと呼びます。

例：OS（Windows、Mac等）

アプリケーションソフト（Word、Edge、ウイルスバスター等）

ダウンロード

インターネット上からファイル（文章、音楽、画像等）をパソコン上に保存する作業です。

スタート画面

パソコンのスタートボタンクリック後に表示される基本となる操作画面です。

バックアップ

パソコンの中のデータをUSBメモリや外付けHDD等にコピーを行う作業です。パソコンの故障や操作ミスによってデータが消えてしまった時の為に行います。バックアップ例：文書、写真、音楽、メール、インターネットのお気に入り等

ハードウェア

パソコンを構成している部品や周辺機器等の総称をハードウェアと呼びます。

例：HDD、メモリ、キーボード、マウス、ディスプレイ、プリンタ、iPod等

プロダクトキー

ソフトウェアのメーカー側でユーザ管理やソフトウェアの不正コピー防止のために発行している番号。ソフトウェアのインストール時やユーザー登録時に使用する。

メモリ

データの保存場所であるHDDから、データを処理するCPUに渡すデータを一時的に置いておくための部品です。

メモリの容量が大きいと一度にたくさんのアプリケーションソフト（Word、ブラウザ等）を使用できたり、動作がスムーズになります。

ライセンス

ソフトウェアを購入した際にソフトウェアを使用する権利のこと。

リカバリ (初期化)

パソコンを購入時の状態に戻す作業です。
パソコンが起動しなくなった際などに行います。

ログイン/ログオフ

ログインはパソコンを利用したり、ホームページ内のサービスを利用する際にIDとパスワードを入力して認証をする作業です。
ログオフはパソコンやサービスの利用を終了する際に行う作業です。

CPU (シーピーユー)

パソコン全体の処理・計算を行う、頭脳と言える部品です。
CPUが良いものであるほど、コンピュータは複雑で多くの処理を速く安定して行えます。

HDD (ハードディスク)

パソコンの中でデータの読み書きを行う装置になります。
容量が多ければ多いほどたくさんのデータを書き込むことができます。

SSD (エスエスディ)

HDD同様データの読み書きを行う装置になります。
SSDはHDDの機構部分をなくし、電子部品で構成された装置でHDDに比べ高速で消費電力が少ない特徴があります。

LAN

ケーブルや無線などを使って、同じ建物の中にあるコンピュータや通信機器、プリンタなどを接続し、データをやり取りするネットワークです。

OS (オペレーティングシステム)

WindowsやMac等の主にパソコンのソフトウェアやハードウェアを管理する機能になります。

Wi-Fi (ワイファイ)

無線LANの規格のひとつ。
最近ではWi-Fi=無線LANといった意味で使われることが多いようです。

32bitと64bit

まずbit(ビット)とはパソコンで扱う情報量の最小単位です。
bitの単位が大きい方がよりCPUで多くの情報量进行处理することができます。
※古いWindowsでは「32bit(ビット)」を使用していましたが、最近のパソコンは「64bit(ビット)」に切り替わりました、その為、以下の注意点があります。

互換性の違い

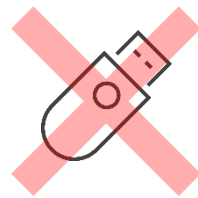
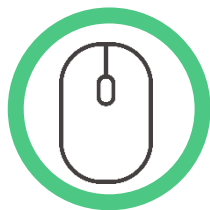
一般に32 bit(ビット)用アプリケーションと64 bit(ビット)アプリケーションは互換性がありません。

古いアプリケーションソフトには32 bit(ビット)のみ対応の場合があり、Windows対応と記載

されていても最近の64 bit(ビット) Windowsでは動作しないアプリケーションソフトがあります。

古いアプリケーションソフトをインストールする場合は64 bit(ビット)に対応しているか確認する必要があります。

セットアップが終わったら...

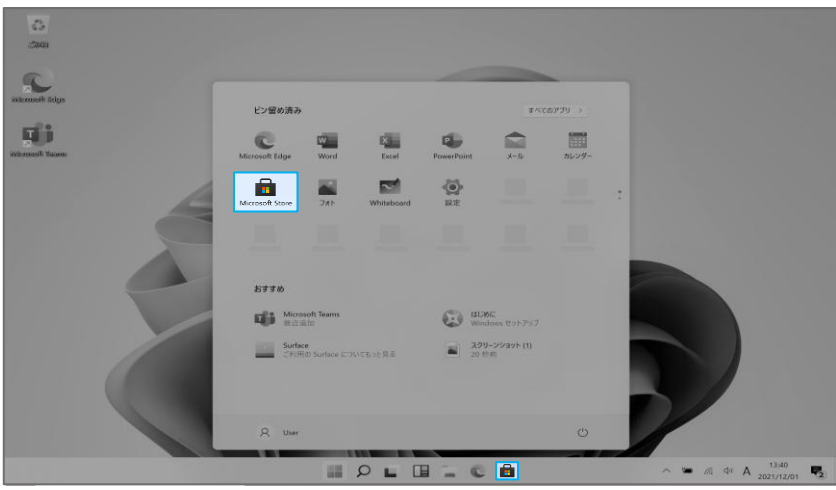


マウスはパソコンに電源が入っていても自由に抜き差しできますが、**USBメモリ**のようなデータを保存しておく機器の場合は、「**USB機器を接続する**」の手順を踏んで外しないと、故障の原因となります。



Surfaceを活用するために






「Microsoft Store」では無料/有料のアプリをダウンロードして利用できます

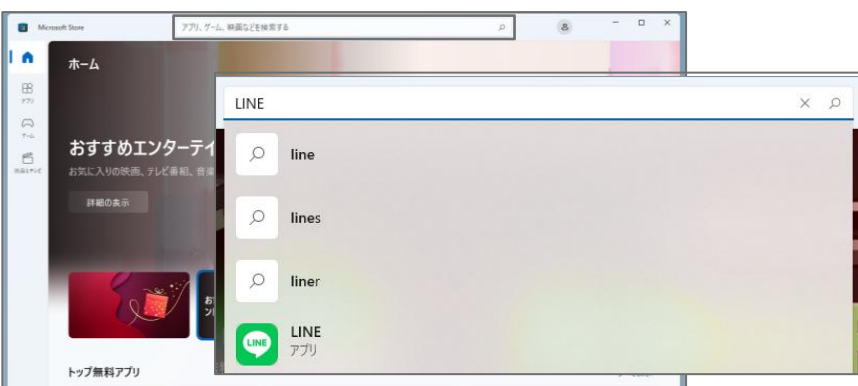
LINE・X(旧Twitter)・InstagramなどのアプリをSurfaceにインストールして活用しましょう



※ダウンロードにMicrosoftアカウントが必要な場合があります

※ 「Microsoft Store」上でのX(旧Twitter)の検索、表記は「Twitter」のままです

 スタートメニュー内 もしくはタスバーのアイコンをクリックして起動します



上部の【検索】ボタンをクリックすると検索窓が表示されるのでそこにキーワードを入力してアプリを探すことができます

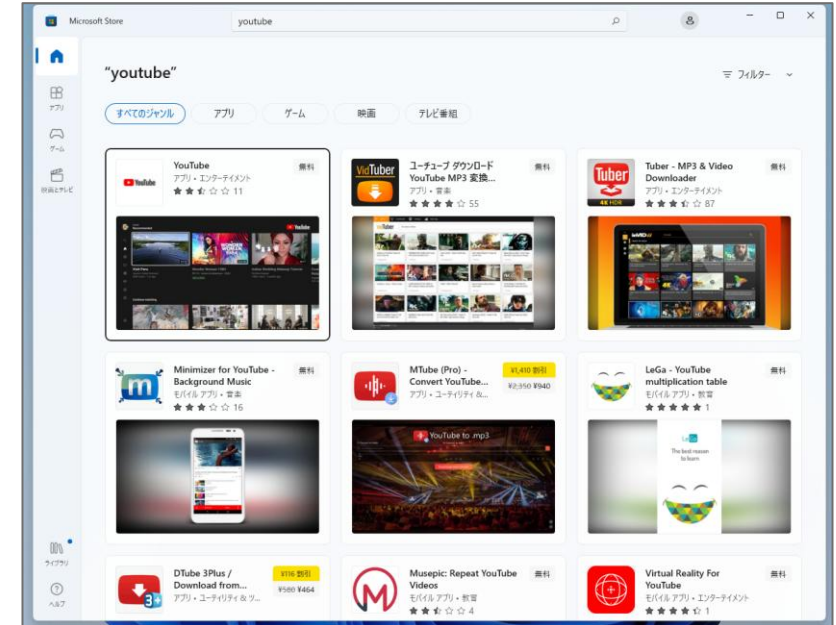


[入手]もしくは[インストール]をクリックするとインストールが開始されます

インストールしたアプリはスタートメニューに表示されます

※インストールの前にアプリのディベロッパー(開発者)を確認しましょう

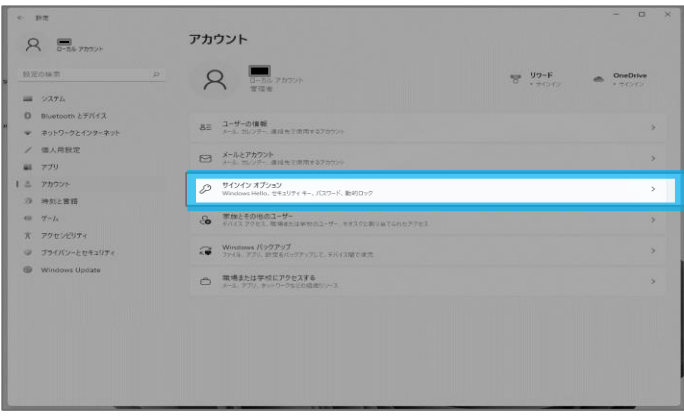
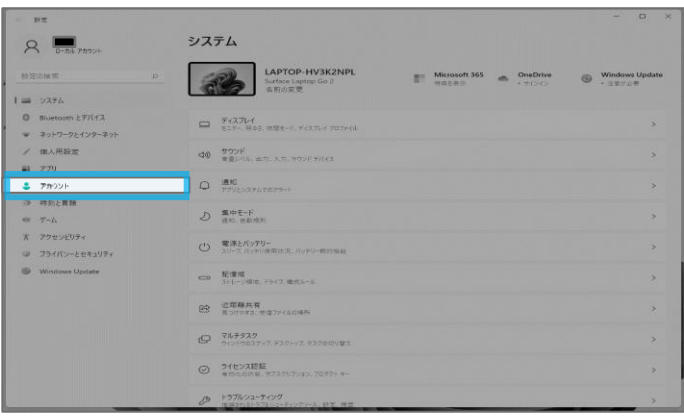
一例としてLINEのディベロッパーは「LINE Corporation」ですので公式アプリです



「Youtube」と検索した結果の画面です表示されている一部が非公式のディベロッパーのアプリです

- ・別のアプリをインストールさせようとする
- ・インターネットブラウザの初期ページを強制的に書換える
- ・個人情報にアクセスしようとする

などのリスクを伴います
自己責任のもとで利用してください



Windows Hello を利用すると、顔認証でパスワード入力なしにサインインが可能です

設定のためには

- ・パスワード
- ・PIN

の2種を設定しておく必要があります

デスクトップ下の「スタート」メニューからアイコン[設定]をクリックします

「Windows の設定」が表示されます

[アカウント]をクリックします

アカウントの画面が表示されます

右列の[サインイン オプション]を選択します

サインイン オプションの項目が表示されます

「PIN」の項目にある[セットアップ]ボタンをクリックします

※初期セットアップでパスワード設定していない場合はPIN追加の前に

[パスワード]の項目からパスワードを設定する必要があります

まずアカウントのパスワードを入力し、[OK]をクリックします

次にPINを設定します

4桁以上の数字を入力してください

2つのボックスに希望するPINを入力し、[OK]をクリックします



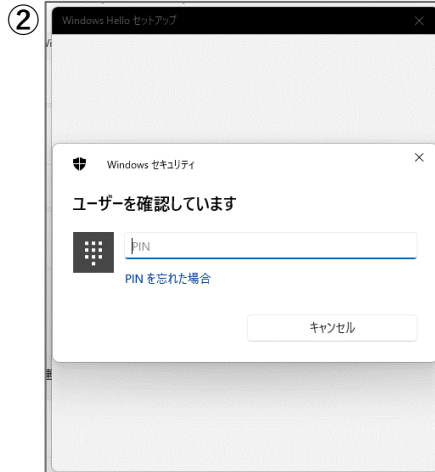
指紋認証をセットアップします

[指紋認証(Windows Hello)]をクリックし、
[セットアップ]のボタンをクリックします



① Windows Hello の設定ウィンドウが開きます
す

[開始する]をクリックします



② ユーザー確認のウィンドウが表示されます
設定した[PIN]を入力します



③ 電源ボタンにタッチと表示されます。
指紋登録したい指を電源ボタンに当てて離す
動作を繰り返します



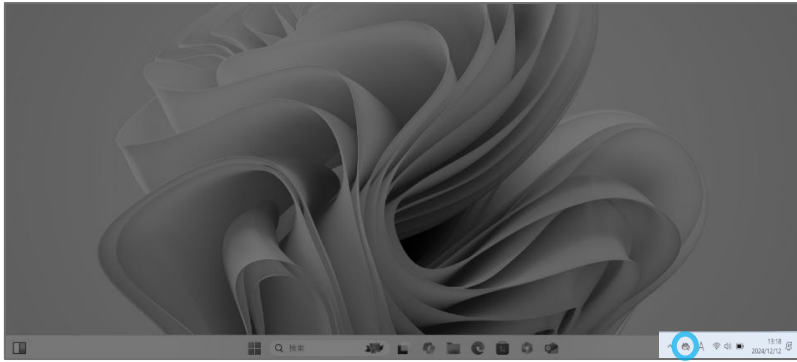
④ 「次は別の角度で行ってください」と表示され
たら[次へ]をクリックします



⑤ 指の縁を読み取るために、角度を変えなが
ら指を当てて離す作業を繰り返します



⑥ 「すべて完了しました。」と表示されたら[閉じ
る]をクリックします



※OneDrive はクラウドを使ったストレージサービスです

Office ライセンスのIDもしくはMicrosoft アカウントを設定して利用します

[☁]雲のアイコンをクリックします。

デスクトップ右下にの[☁]がなければ、右下にある[^]をクリックすると、雲のアイコンが表示されます

OneDrive の設定ウィンドウが表示されます

アカウントのメールアドレス入力後、【サインイン】をクリックし、

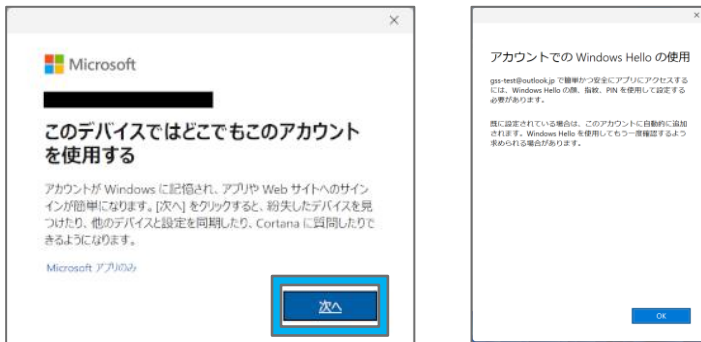
次にパスワードを入力後、[サインイン]をクリックします



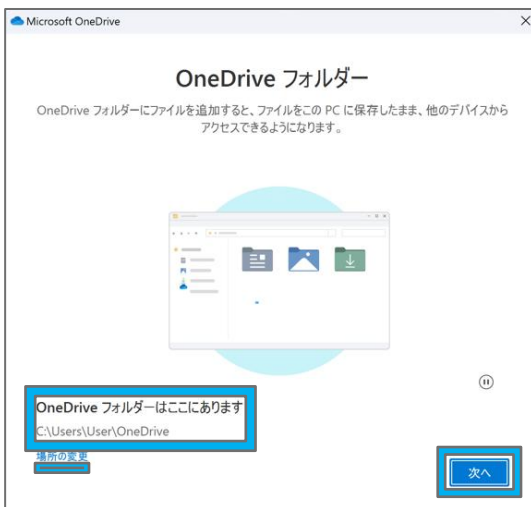
[このデバイスではどこでもこのアカウントを使用する]

【次へ】をクリックします

* 「Windows Helloの使用」が表示された場合は、PINコードや生体認証で承認を行います



[OneDriveフォルダー]の表示がされたら右下の【次へ】をクリック



※保存場所を変更する場合は左下の[場所の変更]をクリックし設定をする



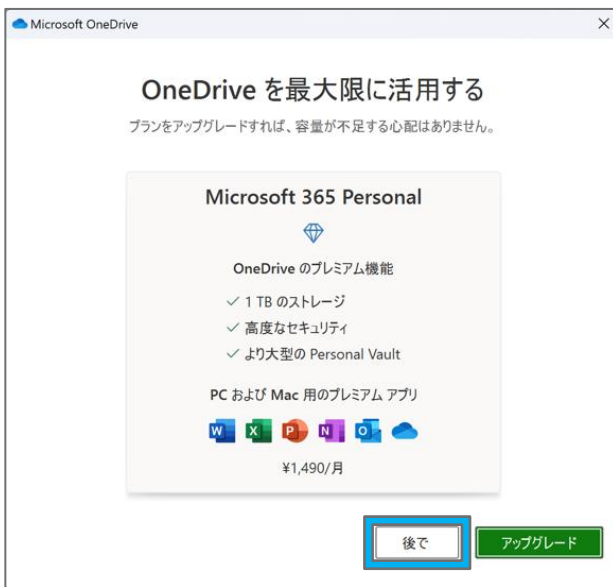
※OneDrive はクラウドを使ったストレージサービスです

Office ライセンスのIDもしくはMicrosoft アカウントを設定して利用します

[このPCのフォルダーをバックアップする]の表示がされたら

- ・ドキュメント
- ・写真
- ・デスクトップ

が選択されているので、右下の【バックアップを開始】をクリックします

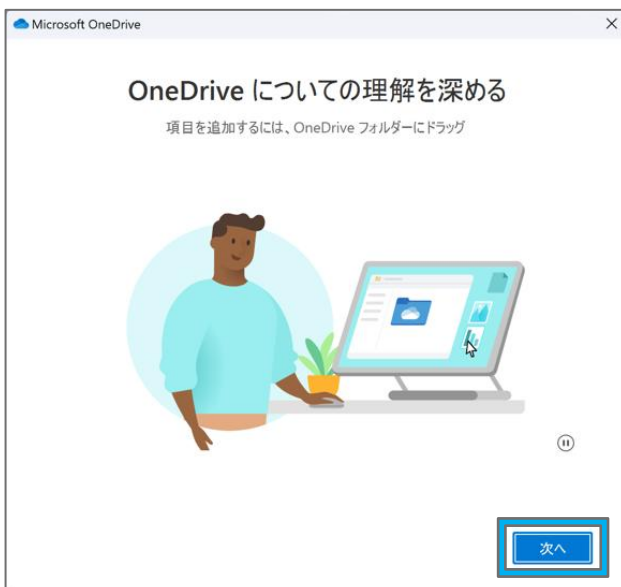


※バックアップするフォルダーから外す場合は各項目の右にあるスイッチを切り替えます。

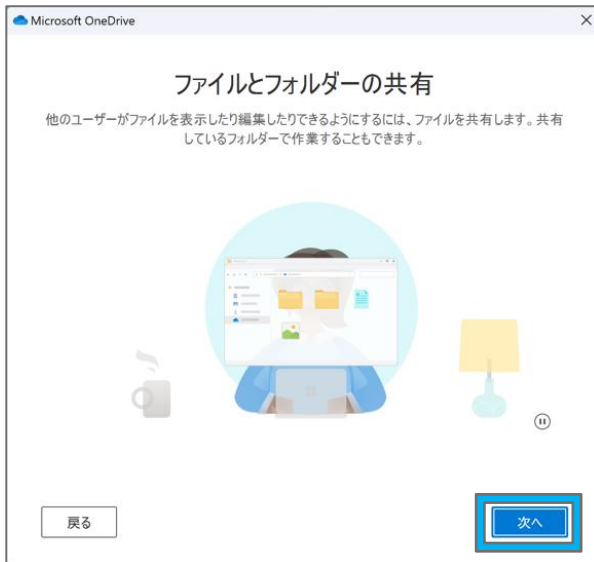
- ・  オン
- ・  オフ

[OneDriveを最大限に活用する]の表示がされたら

【後で】をクリックします



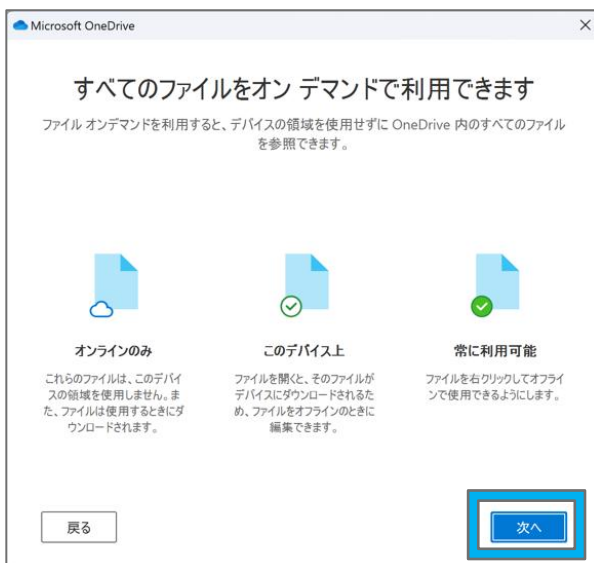
[OneDriveについて理解を深める]の表示がされたら【次へ】をクリックします



※OneDrive はクラウドを使ったストレージサービスです

Office ライセンスのIDもしくはMicrosoft アカウントを設定して利用します

[ファイルとフォルダーの共有]の表示されたら
[次へ]をクリックします



[すべてのファイルをオン デマンドで利用できます]の表示枯がされたら、【次へ】をクリックします

OneDrive に保存したファイルは

- ・Surface 以外のPC
- ・iPhone・Android スマートフォン
- ・Chrome/Safari/FireFoxなどのブラウザ
などからダウンロード可能です

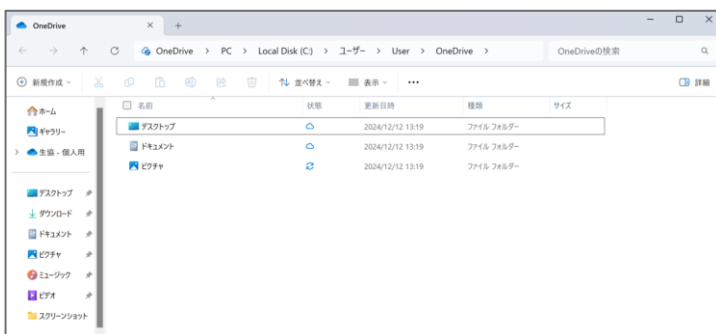
万が一のトラブルでSurface が起動不能になった場合に備え、大事なデータはOneDriveフォルダに保存するようにしましょう



[モバイルアプリを手に入れる] が表示されたら【後で】をクリック



[OneDrive の準備が完了しました]の表示がされたら、【OneDrive フォルダを開く】をクリックするとOneDrive フォルダが表示されます



OneDrive に保存したファイルは

- Surface 以外のPC
- iPhone・Android スマートフォン
- Chrome/Safari/FireFoxなどのブラウザなどからダウンロード可能です

万が一のトラブルでSurface が起動不能になった場合に備え、大事なデータはOneDriveフォルダに保存するようにしましょう



通常シャットダウン方法

方法1

[スタート] メニューを開き

[電源] > [シャットダウン]を選択します。

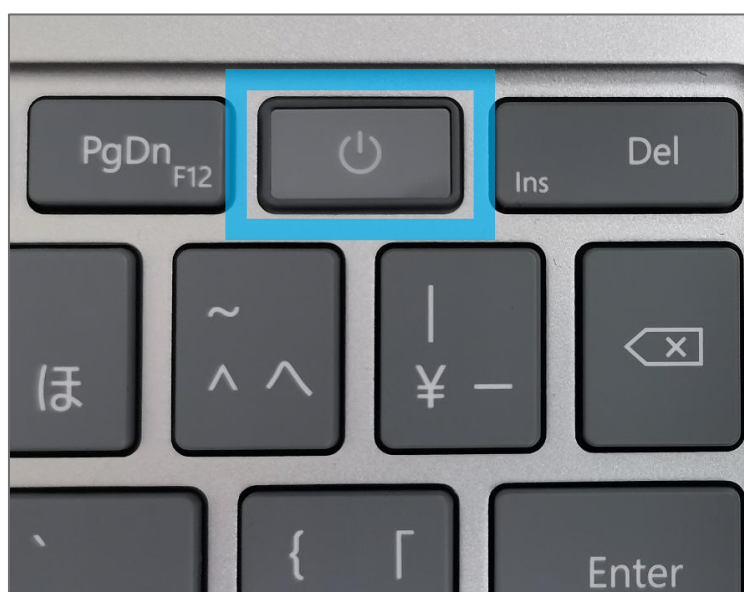
方法2

電源ボタンを長押し (約 3 秒)

[スライドして PC をシャットダウンします] 画面が表示されたら下にスライドします

動作が不安定、フリーズした場合はシャットダウンできない場合があります

やむを得ない場合は以下の方法でシャットダウンしてください



シャットダウンできないときは



方法1 電源15秒長押し

Surface が再起動するまで電源ボタンを長押しし続け、Windows ロゴ画面が表示されたら (約 15 秒) 電源ボタンを離します



ucf2025PCSET014